

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニッポンタイイクダいがく 学校法人 日本体育大学									
フリガナ大学の名称	ニッポンタイイクダいがく 日本体育大学 (Nippon Sport Science University)									
大学本部の位置	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号									
大学の目的	日本体育大学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学の目的と方針に則り、広く知識を授け、深く保健体育及びスポーツに関する学術と実際を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を錬磨し、創造性に富み、国際的視野をもった教養高き人間を育成するとともに、広く人類の健康の増進及び福祉の充実と、スポーツ文化の向上及び体育の発展に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	児童期における心身の発達特性に応じた体づくり、運動遊び・スポーツ、体育及び健康等の分野で指導や支援を強みとした高い専門知識と実践的な教育力をもった資質の高い指導者を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	児童スポーツ教育学部 〔School of Childhood Sport Education〕					学士 (児童スポーツ教育学)	平成25年4月 第1年次	東京都世田谷区深沢 七丁目1番1号		
	児童スポーツ教育学科 〔Department of Childhood Sport Education〕									
	児童スポーツ教育コース 〔Course of Childhood Sport Education〕	4	150	—	600					
	幼児教育保育コース 〔Course of Early Childhood Education〕	4	50	—	200					
計				200		800				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成25年度から収容定員変更申請予定（平成24年6月申請予定） 日本体育大学女子短期大学部（廃止） 体育科（廃止）（△120）平成25年4月学生募集停止 幼児教育保育科（廃止）（△50）平成25年4月学生募集停止 専攻科保育専攻（廃止）（△50）平成27年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科	101科目	53科目	20科目	174科目	132単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
				人	人	人	人	人	人	人
	新設分	児童スポーツ教育学部		17	12	0	4	33	4	14
		児童スポーツ教育学科		(14)	(12)	(0)	(4)	(30)	(4)	(5)
		計		17	12	0	4	33	4	14
				(14)	(12)	(0)	(4)	(30)	(4)	(5)
	既設分	体育学部 体育学科		18	20	0	5	43	9	107
				(18)	(20)	(0)	(5)	(43)	(9)	(107)
		健康学科		14	11	0	0	25	5	12
			(14)	(11)	(0)	(0)	(25)	(5)	(12)	
武道学科			9	6	0	2	17	2	37	
		(9)	(6)	(0)	(2)	(17)	(2)	(37)		
社会体育学科		8	9	0	1	18	7	19		
		(8)	(9)	(0)	(1)	(18)	(7)	(19)		
	計		49	46	0	8	103	23	175	
			(49)	(46)	(0)	(8)	(103)	(23)	(175)	
	合計		66	58	0	12	136	27	189	
			(63)	(58)	(0)	(12)	(133)	(27)	(180)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		80 (80)	14 (14)	94 (94)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		9 (9)	0 (0)	9 (9)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		89 (89)	14 (14)	103 (103)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	126,951.32㎡	— ㎡	— ㎡	126,951.32㎡			大学全体		
	運 動 場 用 地	80,088.44㎡	— ㎡	— ㎡	80,088.44㎡					
	小 計	207,039.76㎡	— ㎡	— ㎡	207,039.76㎡					
	そ の 他	60,175.14㎡	— ㎡	— ㎡	60,175.14㎡					
	合 計	267,214.90㎡	— ㎡	— ㎡	267,214.90㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		58,274.90㎡ (58,274.90㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	58,274.90㎡ (58,274.90㎡)			大学全体		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体		
	43室	42室	36室	3室 (補助職員1人)	0室 (補助職員1人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		児童スポーツ教育学部			32 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 405,840[89,240] (372,000[85,400]) 学術雑誌 5,833 [1,165] (5,833 [1,165]) 電子ジャーナル 110 [110] (110 [110]) 視聴覚資料 54,100 (52,100)		
	児童スポーツ教育学部	37,160 [2,760] (35,000 [2,600])	683 [135] (667 [135])	21 [21] (21 [21])	900 (900)	889 (789)	5 (5)			
	計	37,160 [2,760] (35,000 [2,600])	683 [135] (667 [135])	21 [21] (21 [21])	900 (900)	889 (789)	5 (5)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		2,856㎡	570		557,000					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		42,593.97㎡	屋外温水プール、アーチェリー場、ゴルフ練習場							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル、 データベースの 設備費(運用コ スト含む)を含 む
		教員1人当り研究費等		750千円	750千円	750千円	750千円	—	—	
		共同研究費等		10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	—	—	
		図書購入費	22,500千円	18,000千円	18,000千円	18,000千円	18,000千円	—	—	
	設備購入費	70,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,410千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金等							

既設大学等の状況	大学の名称	日本体育大学							東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	体育学部	年	人	年次人	人		倍			
	体育学科	4	620	—	2,480	学士(体育学)	1.32	昭和24年度		
	健康学科	4	160	—	640	学士(体育学)	1.24	昭和37年度		
	武道学科	4	120	—	480	学士(体育学)	1.14	昭和40年度		
	社会体育学科	4	160	—	640	学士(体育学)	1.24	昭和50年度		
	専攻科	1	20	—	20	—	0.40	昭和46年度		
	大学の名称	日本体育大学女子短期大学部								※平成25年4月より学生募集停止(専攻科保育専攻は平成27年4月より学生募集停止)
	体育科	2	120	—	240	短期大学士(体育学)	1.28	昭和28年度		
幼児教育保育科	2	50	—	100	短期大学士(幼児教育学)	0.96	昭和38年度			
専攻科保育専攻	1	50	—	50	—	0.82	平成18年度			
大学の名称	日本体育大学大学院							東京都世田谷区深沢七丁目1番1号		
体育科学研究科	年	人	年次人	人		倍				
体育科学専攻(博士前期課程)	2	25	—	50	修士(体育科学)	1.52	昭和50年度			
体育科学専攻(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(体育科学)	1.49	平成9年度			
附属施設の概要	<p>名称：体育研究所 目的：体育・スポーツに関する研究 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：昭和37年4月 規模等：242.37㎡(東京・世田谷キャンパス 教育研究棟G階)</p> <p>名称：スポーツ・トレーニングセンター 目的：学生の体力向上及びトップアスリートの競技力向上 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：昭和39年2月 規模等：990.56㎡(東京・世田谷キャンパス スポーツ棟1階) 1,874.24㎡(横浜・健志台キャンパス 百年記念館1階)</p>									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に於ける学則の変更の届出を行う場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行う場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号(その1の1)補足資料

学校法人日本体育大学 届出設置に関わる組織の移行表

平成24年度	入学定員	編入学定員	収容定員		平成25年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由	
日本体育大学					日本体育大学					
体育学部					体育学部					
体育学科	620	—	2480	→	体育学科	620	—	2480		
健康学科	160	—	640		健康学科	160	—	640		
武道学科	120	—	480		武道学科	120	—	480		
社会体育学科	160	—	640		社会体育学科	160	—	640		
					<u>児童スポーツ教育学部</u>				学部の設置（届出設置）	
					<u>児童スポーツ教育学科</u>					
					<u>児童スポーツ教育コース</u>	<u>150</u>	—	<u>600</u>		
					<u>幼児教育保育コース</u>	<u>50</u>	—	<u>200</u>		
専攻科	20	—	20		専攻科	20	—	20		
日本体育大学大学院					日本体育大学大学院					
体育科学研究科 博士前期課程	25	—	50	→	体育科学研究科 博士前期課程 (M)	25	—	50		
博士後期課程	6	—	18		博士後期課程 (D)	6	—	18		
日本体育大学女子短期大学部					日本体育大学女子短期大学部					
体育科	120	—	240	→		<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成25年4月学生募集停止	
幼児教育保育科	50	—	100			<u>0</u>	—	<u>0</u>	平成25年4月学生募集停止	
専攻科保育専攻	50	—	50		専攻科保育専攻	50	—	50	平成27年4月学生募集停止	

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和24年4月	体育学部体育学科 設置	体育	設置認可 (学部)
昭和37年4月	体育学部健康学科 設置	体育	設置認可 (学科)
昭和40年4月	体育学部武道学科 設置	体育	設置認可 (学科)
昭和50年4月	体育学部社会体育学科 設置	体育	設置認可 (学科)
平成17年4月	体育学部のカリキュラム変更	—	学則変更
平成20年4月	体育学部のカリキュラム変更	—	学則変更
平成21年4月	体育学部のカリキュラム変更	—	学則変更
平成25年4月	児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科 設置	体育 教育学・保育学	届出設置 (学部)
	日本体育大学女子短期大学部体育科 及び幼児教育保育科の学生募集停止 (専攻科保育専攻は平成27年4月 募集停止)	—	学生募集停止 (学科及び 専攻科)

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要

(児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科)

科目区分1	科目区分2	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部 共通科目	言語コミュニケーション科目	基礎英語Ⅰ	1前	1				○			1					兼1
		基礎英語Ⅱ	1後	1				○			1					兼1
		英語コミュニケーションⅠ	2前	1				○			1					兼1
		英語コミュニケーションⅡ	2後	1				○			1					兼1
		小計(4科目)	—	4	0	0		—			1					兼1
	教養科目	現代社会と憲法	1前		2			○								兼1
		情報機器の操作	1前		2			○								兼1
		こころと行動の科学	1前		2			○								兼1
		生命の科学	2前		2			○								兼1
		変貌する社会と人間生活	2後		2			○			1					兼1
		身体とスポーツの文化論	1前		2			○			1					兼1
		文学と人間	2前		2			○								兼1
		経済学から眺める社会	2後		2			○								兼1
	小計(8科目)	—	0	16	0		—			2					兼6	
	総合科目	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2				○								兼1
		野外活動実習	1前	1						○	1					集中
	小計(2科目)	—	3	0	0		—			1					兼1	
	基軸科目	基礎ゼミナールⅠ	1前	1					○		3	4		1		
基礎ゼミナールⅡ(アカデミックテラシー)		1後	1					○		2	1		1			
児童スポーツ教育演習		2通	2					○		3	3					
児童スポーツ教育研究Ⅰ		3通	2					○		17	12		4			
児童スポーツ教育研究Ⅱ		4通	2					○		17	12		4			
小計(5科目)	—	8	0	0		—			17	12		4				
学科 共通科目	基幹科目	児童スポーツ教育論	1前	2				○		1	1					オムニバス
		児童健康教育論	1後	2				○								兼1
		発育発達論	2前	2				○								兼1
		児童の身体の仕組み	1前	2				○		1						兼1
		児童スポーツ指導論	2前	2				○		1	1					オムニバス
		児童の体づくりと動きづくり	3前	2				○		2	1					オムニバス
		スポーツ生理学	1後	2				○			1					オムニバス
		スポーツバイオメカニクス	3前	2				○			1					オムニバス
	小計(8科目)	—	16	0	0		—			4	3				兼3	
	食育論	1前	2					○						1		
		ライフステージ栄養学	2前		2			○						1		
	小計(2科目)	—	2	2	0		—						1			
	スポーツ実技科目	体づくり運動(体操)	2前	1						○		1				
		ダンス	1後	1						○		1				
		小計(2科目)	—	2	0	0		—			2					
		器械運動	1後		1					○		1				
		陸上競技	1後		1					○		1				
		水泳	1前		1					○						兼1
ボールゲーム		1前		1					○		1		1		オムニバス	
柔道		3前		1					○		1					
エアロビックエクササイズ	3前		1					○				1				
レクリエーション	4前		1					○						兼1		
小計(7科目)	—	0	7	0		—			4		2			兼2		
自由科目	アダプテッドスポーツ論	3後			2			○							兼1	
	アダプテッドスポーツ実技	4前			1				○						兼1	
	スポーツ現場実務論	3後			2			○		1		2			オムニバス	
	スポーツ現場実習	4前・後			1				○	1		2			集中	
小計(4科目)	—	0	0	6		—			1		2			兼1		

別記様式第2号（その2の1）

科目区分1	科目区分2	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
児童スポーツ教育コース 専門科目	基幹科目	スポーツの歴史と本質	1後		2		○									兼1		
		児童スポーツトレーニング学	2前		2		○				1					兼1	オムニバス	
		発達障害と特別支援教育	3後		2		○				1					兼1	オムニバス	
		児童スポーツコーチング学	2前		2		○				2							
		スポーツ社会学	3後		2		○						1					
		スポーツ心理学	2後		2		○											
		スポーツ経営管理学	4後		2		○										兼1	
		身体と運動の測定評価学	3前		2		○										兼1	
		スポーツ栄養学	4後		2		○							1				
		衛生学・公衆衛生学	3前		2		○										兼1	
		児童医学	4前		2		○										兼1	
	小計(11科目)		—	0	22	0				1	4			2		兼4	—	
	展開科目	学校保健(小児保健・精神保健を含む)	3前		2		○									兼1		
		ヘルスプロモーション	3前		2		○									兼1		
		生涯スポーツ論	4後		2		○						1			兼1		
		野外活動論	4前		2		○									兼1		
		トレーニング実践演習	4後		1			○			1					兼1		
	救急処置実習(テビングを含む)	4後		1			○								兼1			
	小計(6科目)		—	0	10	0					1			1		兼4	—	
	教育の基礎	教育原理	1前		2		○			1								
		保育原理	1前		2		○				1							
		教育の方法と技術(メディア教育を含む)	2後		2		○			2							オムニバス	
		教育の制度と経営	3後		2		○						1					
		教師論	1前		2		○			1								
		発達心理学	3後		2		○									兼1		
		人権教育	4前		2		○			1								
		小計(7科目)		—	0	14	0				3	1			1		兼1	—
		特別活動の指導法	1後		2		○			1							兼1	
		教育心理学	1後		2		○										兼1	
	教育課程論	2前		2		○			1									
	道徳教育指導論	2後		2		○						1						
	教育相談(カウンセリングを含む)	3前		2		○					1				兼1	オムニバス		
	幼児理解	4前		2		○					1							
生徒指導論(進路指導を含む)	3前		2		○				1									
小計(7科目)		—	0	14	0				2	2			1		兼2	—		
教育の教科の内容及び指導法	初等体育A(個人スポーツ)	2通		2			○			3						オムニバス		
	初等体育B(対人・集団スポーツ)	2通		2			○		1				1			オムニバス		
	初等体育C(子どもの運動遊び)	2通		2			○		1	1			1			オムニバス		
	小計(3科目)		—	0	6	0				2	4			2			—	
	初等国語(書写を含む)	2後		2		○			1									
	初等算数	1前		2		○			1									
	初等音楽	1通		2			○		1						兼4			
	初等図画工作	3通		2			○								兼1			
	小計(4科目)		—	0	8	0				3						兼5	—	
	初等理科	1後		2			○		1									
	初等社会	1後		2		○			1							兼1		
	初等家庭科	2前		2		○												
初等生活	3前		2		○			2							オムニバス			
小計(4科目)		—	0	8	0				2						兼1	—		
初等体育科教育法	2後		2		○			2								オムニバス		
初等国語科教育法	3後		2		○			1										
初等理科教育法	2前		2		○			1										

別記様式第2号（その2の1）

科目区分1	科目区分2	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
児童スポーツ教育コース 専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等算数科教育法	3後		2		○			1						兼1 兼1 兼1 オムニバス	
		初等社会科教育法	3後		2		○			1							
		初等音楽科教育法	2後		2		○										
		初等図画工作科教育法	3後		2		○										
		初等家庭科教育法	3後		2		○										
		初等生活科教育法	3後		2		○			2							
		小計(9科目)	—	0	18	0				6							兼3
		国語科教育実践演習	4前		2			○		1							
		算数科教育実践演習	4前		2			○		1							
	理科教育実践演習	4前		2			○		1								
	社会科教育実践演習	4前		2			○		1								
	体育科教育実践演習	4前		2			○		1	1					オムニバス		
	小計(5科目)	—	0	10	0				5	1					—		
	幼児教育の指導法	保育内容総論	3後		2		○				1					兼1 兼1 兼2	
		健康指導法	4前		2		○			1							
		人間関係指導法	4前		2		○			1							
		環境指導法	4後		2		○			1							
		言葉指導法	4後		2		○			1							
		表現指導法	4前		2		○										
		造形指導法	4前		2		○										
	小計(7科目)	—	0	0	14				4	1					兼2		
教育実習	教育実習指導Ⅰ	3前		1		○			2				1		オムニバス		
	教育実習Ⅰ(小学校)	3後		2				○	2				1		集中		
	教育実習指導Ⅱ	4前		1		○			3						オムニバス		
	教育実習Ⅱ(小学校)	4前		2				○	3						集中		
	教職実践演習(小学校)	4後		2		○			3						オムニバス		
小計(5科目)	—	0	0	8				4			1			—			
幼児教育保育コース 専門科目	基幹科目	子どもの運動遊び	2後		1			○		1						オムニバス	
		子ども家庭福祉	1後		2		○			1	1						
		社会福祉学	2前		2		○				1						
		教育・保育課程論	2後		2		○			1	1						
		保育者論	2後		2		○				1						
		社会的養護	3前		2		○			1							
		家庭支援論	4前		2		○			1							
		発達障害と特別支援教育	3後		2		○				1						兼1 オムニバス
	小計(8科目)	—	0	15	0				2	3					兼1		
	展開科目	幼児体育	1通		2			○		1						兼3 兼4 兼1 兼1 オムニバス	
		ピアノ	2後		1			○		1							
		器楽演習	2前		1			○		1							
		リミック	3前		1			○									
		生活	4前		2		○			1							
		小計(5科目)	—	0	7	0				3							兼6
		保育内容総論	1後		2		○			1	1						
		子どもと健康	2前		2		○			1							
		子どもと人間関係	2前		2		○			1							
		子どもと環境	2後		2		○			1							
	子どもと言葉	2後		2		○			1								
	子どもと表現	2前		2		○									兼1		
小計(6科目)	—	0	12	0				3	1					兼1			
教育の基礎	児童文化	2後		1			○		1	1					オムニバス		
	相談援助	3前		1			○			1							
	障がい児保育	2前		2		○									兼1		
	病児・病後児保育	4前		2		○									兼1		
	幼児理解とカウンセリング	3前		2		○			1	1							
	小計(5科目)	—	0	8	0				1	2					兼2		
教育の基礎	教育原理	1前		2		○			1						オムニバス		
	保育原理	1前		2		○				1							
	教育の方法と技術(メディア教育を含む)	2後		2		○			2								
	教育の制度と経営	3後		2		○						1					
	教師論	1前		2		○			1								
	発達心理学	3後		2		○										兼1	
	人権教育	4前		2		○			1								
小計(7科目)	—	0	14	0				3	1		1			兼1			

別記様式第2号（その2の1）

科目区分1	科目区分2	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
幼児教育保育コース 専門科目	教育の教科の内容	初等国語(書写を含む)	2後		2		○			1											
		初等算数	1前		2		○			1											
		初等音楽	1通		2			○		1								兼4			
		初等図画工作	3通		2			○		1								兼1			
		小計(4科目)		—	0	8	0	—	—	3								兼5	—		
	と教育方法及び保育に関する基礎	保育の心理学Ⅰ	3後		2		○												兼1		
		保育の心理学Ⅱ	4前		1			○											兼1		
		子どもの保健ⅠA	1後		2		○			1											
		子どもの保健ⅠB	2後		2		○			1											
		子どもの保健Ⅱ	4後		1			○		1									兼1		
		子どもの食と栄養	3通		2			○													
		小計(6科目)		—	0	10	0	—	—	1									兼2	—	
	教育及び保育の実践の内容と方法に関する	保育内容総論演習	3後		1			○			1										
		保育内容演習(健康)	3前		1			○		1	1										
		保育内容演習(人間関係)	3前		1			○		1											
		保育内容演習(環境)	3後		1			○		1											
		保育内容演習(言葉)	3後		1			○		1											
		保育内容演習(表現)	3前		1			○												兼1	
		小計(6科目)		—	0	6	0	—	—	3	1									兼1	—
		乳児保育	3通		2			○		1											
		障がい児保育演習	4通		2			○												兼1	
		社会的養護内容	4前		1			○		1											
	保育相談支援	3前		1			○				1										
	小計(4科目)		—	0	6	0	—	—	2	1									兼1	—	
	保育実習	保育実習Ⅰ①	3後		2				○	1										集中	
		保育実習Ⅰ②	3後		2				○		1									集中	
		保育実習指導Ⅰ	3通		2			○		1	1									オムニバス	
小計(3科目)			—	0	6	0	—	—	1	1									—		
保育実習Ⅱ		4後		2				○	1										集中		
保育実習Ⅲ		4後		2				○		1									集中		
小計(2科目)			—	0	4	0	—	—	1	1									—		
保育実習指導Ⅱ		4後		1			○		1										集中		
保育実習指導Ⅲ	4後		1			○			1									集中			
小計(2科目)		—	0	2	0	—	—	1	1									—			
総合演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	4後		2			○		3	1									オムニバス		
	小計(1科目)		—	0	2	0	—	—	3	1									—		
教育実習	教育実習指導Ⅰ	3前		1			○			1									集中		
	教育実習Ⅰ(幼稚園)	3後		1				○		1									集中		
	教育実習指導Ⅱ	4前		1			○		1										集中		
	教育実習Ⅱ(幼稚園)	4前		3				○		1									集中		
小計(4科目)		—	0	0	6	—	—	1	1									—			
自由科目	在宅保育論	4前		2		○			3	1									オムニバス		
	小計(1科目)		—	0	0	6	—	—	3	1									—		
合計(174科目)			—	35	235	40	—	—	17	12			4					兼33	—		

学士又は称号

学士(児童スポーツ教育学)

学位又は学科の分野

体育関係、教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法

授業期間等

<学部共通>の【言語コミュニケーション科目】から必修科目4単位、【教養科目】から選択科目10単位以上、【総合科目】から必修科目3単位、【基軸科目】から必修科目8単位、小計25単位以上修得し、<学部共通>の【基幹科目】の一つめの区分から必修科目16単位、二つめの区分から2単位以上(必修1科目分を含む)、【スポーツ実技科目】の一つめの区分から必修科目2単位、二つめの区分から選択科目3単位以上、小計23単位以上修得し、学部共通科目及び学科共通科目あわせて48単位を修得するほか、次の2つのコースのいずれかから84単位以上を修得し、学部共通及び学科共通と合わせて132単位以上修得すること。

<児童スポーツ教育コース>の【基幹科目】から必修科目22単位、【展開科目】から6単位以上、【教育の基礎】の一つめの区分から10単位以上(必修4科目分を含む。)、二つめの区分から12単位以上(必修6科目分を含む。)、【教育の教科の内容及び指導法】の一つめの区分から4単位以上、二つめの区分から6単位以上、三つめの区分から4単位以上、四つめの区分から9科目18単位、五つめの区分から2単位、合わせて84単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:40単位(年間))

<幼児教育保育コース>の【基幹科目】から8科目15単位、【展開科目】の一つめの区分から4単位以上(必修科目1科目分含む。)、二つめの区分から6科目12単位、三つめの区分から4単位以上(必修科目1科目分含む。)、【教育の基礎】から10単位以上(必修科目4科目分含む。)、【教育の教科の内容】から6単位以上、【教育及び保育の内容と方法に関する基礎】から6科目10単位、【教育及び保育の内容と方法に関する実践】の一つめの区分から6科目6単位、二つめの区分から4科目6単位、【保育実習】の一つめの区分から3科目6単位、二つめの区分から2単位以上、三つめの区分から1単位以上、【総合演習】の1科目2単位、合わせて84単位を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:40単位(年間))

1学年の学期区分

2学期

1学期の授業時間

15週

1時限の授業時間

90分

教育課程等の概要

(体育学部体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	生活・文化科学系	法学(日本国憲法を含む)	1前・後	2		○				1							
		経済学	2前・後	2		○				1							
		哲学	1前・後	2		○										兼2	
		社会学	1前・後	2		○										兼1	
		文学	2前・後	2		○				1						兼2	
		芸術(音楽)	1前・後	2		○					1		1			兼2	
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	1	3	0	1	0		兼7		
	生体・情報科学系	生命科学	1前・後	2		○					1					兼1	
		心理学	1前・後	2		○				1						兼1	
		統計学	2前・後	2		○				1						兼3	
		エコロジー	2前・後	2		○										兼2	
		情報処理(情報機器の操作)	1前・後	2		○					2					兼2	
	小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	2	3	0	0	0		兼6		
	外国語	英語ⅠA(外国語コミュニケーション)	1前	1			○			2	3					兼9	
		英語ⅠB(外国語コミュニケーション)	1後	1			○			2	3					兼9	
		英語ⅡA	2前	1			○			1	4					兼10	
		英語ⅡB	2後	1			○			1	4					兼10	
		ドイツ語ⅠA	2・3前		1		○				1					兼1	
		中国語ⅠA	2・3前		1		○									兼2	
		韓国語ⅠA	2・3前		1		○									兼1	
		フランス語ⅠA	2・3		1		○										
		ドイツ語ⅠB	2・3後		1		○				1					兼1	
		中国語ⅠB	2・3後		1		○									兼2	
		韓国語ⅠB	2・3後		1		○									兼1	
		フランス語ⅠB	2・3		1		○										
	小計(12科目)	—	—	4	0	8	—	—	1	2	0	0	0		兼19		
	F Y E	基礎教養ゼミナール(自校史・スタディースキルを含む)	1前	1			○			1						兼5	
海浜実習(フレッシュマン教育)		1前	1					○	1							集中	
小計(2科目)	—	—	2	0	0	—	—	2	0	0	0	0		兼5			
社会人基礎力科目	キャリアデザイン	キャリアデザインA	1前・後	1			○								兼4		
		キャリアデザインB	2前・後	1			○								兼3		
		キャリアインターンシップA	3後	1					○	18	20		5		兼4		
		キャリアインターンシップB	4後	1					○						兼4		
	小計(4科目)	—	—	0	4	0	—	—	18	20	0	5	0	兼11			
	クラブ活動	クラブ活動A	1通年	1			○			18	20		1		兼6		
		クラブ活動B	2通年	1			○			18	20		1		兼6		
		クラブ活動C	3通年	2			○			18	20		1		兼6		
		クラブ活動D	4通年	2			○			18	20		1		兼6		
	小計(4科目)	—	—	0	6	0	—	—	18	20	0	1	0	兼6			
	社会貢献	社会貢献実習A	1後	1					○	18	20		5		兼4		
		社会貢献実習B	2後	1					○	18	20		5		兼1		
		社会貢献実習C	3後	1					○	18	20		5		兼4		
		社会貢献実習D	4後	1					○	18	20		5		兼4		
小計(4科目)	—	—	0	4	0	—	—	18	20	0	5	0	兼4				

教育課程等の概要

(体育学部体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部専門科目	基礎科目	体育・スポーツ科学入門	1前	2			○			1						
		小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
	運動方法実技	運動方法・陸上運動	1前・後	1					○		3					兼3
		運動方法・水泳運動	1前	1					○	1	1					兼5
		運動方法・器械運動	1前・後	1					○	2	1					兼2
		運動方法・体づくり運動	1前・後	1					○		1		1			兼3
		運動方法・バレーボール	1前・後	1					○	1	2					兼1
		運動方法・バスケットボール	1前・後	1					○	1			1			兼3
		運動方法・武道(柔道)	1前・後		1				○		1		1			兼4
		運動方法・武道(剣道)	1前・後		1				○	1			1			兼2
		運動方法・武道(相撲)	1前・後		1				○	2	1		1			
		運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1前・後	1					○		2		1			兼2
		小計(10科目)	—	7	3	0	—			7	11	0	5	0		兼25
	健康科学・スポーツ医学系	スポーツ生理学	2前・後		2			○			1	1				
		発育発達論	1前・後		2			○				2				
		機能解剖学	1前・後		2			○			2					
		衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1前・後		2			○			1	1				
		スポーツ医学	2前・後		2			○			2					オムニバス
		小計(5科目)	—	0	10	0	—			5	3	0	0	0	0	
	スポーツ文化・社会科学系	スポーツ哲学	2前・後		2			○				1				
		スポーツ史	2前・後		2			○				1				兼3
		スポーツ社会学	3前・後		2			○				1				兼1
		スポーツ経営管理学	3前・後		2			○			1					兼2
		スポーツ行政	3前・後		2			○			1					兼4
		スポーツ人類学	2前・後		2			○								兼3
		生涯スポーツ論	2前・後		2			○			1	1				
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	4	0	0	0	0	兼10
	トレーニング科学系	トレーニング学	1前・後	2				○			1					
		スポーツ心理学	3前・後	2				○			2					
		スポーツバイオメカニクス	3前・後	2				○			1	1				
		コーチング学	2前・後	2				○			1					兼1
		スポーツ栄養学(食品学を含む)	1前・後	2				○			1					兼1
		測定評価学	3前・後	2				○								兼2
	小計(6科目)	—	12	0	0	—			6	1	0	0	0	0	兼4	
学部専門科目	専門運動方法 I (表現運動)トランポリン	2前・後		1				○		1					兼2	
	専門運動方法 I (表現運動)エアロビックエクササイズ	2前・後		1				○							兼3	
	専門運動方法 I (武道・格技運動)レスリング	2前・後		1				○		1		1				
	専門運動方法 I (球技運動ネット・ラケット型)卓球	2前・後		1				○			1				兼2	
	専門運動方法 I (球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	2前・後		1				○		1					兼2	
	専門運動方法 I (球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	2前・後		1				○				1			兼1	
	専門運動方法 I (球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	2前・後		1				○			1				兼3	
	専門運動方法 I (球技運動ゴール型)サッカー	2前・後		1				○			1		1			
	専門運動方法 I (球技運動ゴール型)ハンドボール	2前・後		1				○		1			1		兼1	
	専門運動方法 I (球技運動ゴール型)ラグビー	2前・後		1				○			1				兼1	
	専門運動方法 I (球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	2前・後		1				○		1			1		兼1	
	専門運動方法 I (球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	2前・後		1				○			1				兼1	
	専門運動方法 I (その他の運動)グループレクリエーション	2前・後		1				○							兼2	
	専門運動方法 I (その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	2前・後		1				○							兼3	
	専門運動方法 I (その他の運動)アーチェリー	2前・後		1				○			1				兼2	
	小計(15科目)	—	0	15	0	—			5	6	0	5	0	0	兼21	

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(体育学部体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部専門科目	専門運動方法Ⅱ(陸上運動)	3前・後		1				○		2					兼1
	専門運動方法Ⅱ(水泳運動)	3前・後		1				○		1					兼6
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)器械運動	3前・後		1				○							兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)体づくり運動	3前・後		1				○	1	1					
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)トランポリン	3前		1				○	1						兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)ダンス(フォークダンスを含む)	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)エアロビックエクササイズ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)柔道	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)剣道	3前・後		1				○	1	1		1			
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)相撲	3前・後		1				○		1		1			
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)レスリング	3前・後		1				○	1			1			
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バレーボール	3前・後		1				○	1	2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)卓球	3前・後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	3前		1				○	1						兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	3前・後		1				○	1			2			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)バスケットボール	3前		1				○				1			兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)サッカー	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ハンドボール	3前・後		1				○				1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ラグビー	3前		1				○		2					兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	3前・後		1				○					2		
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)グループレクリエーション	3前		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)アーチェリー	3前・後		1				○		2					兼2
	競技スポーツ方法論(陸上運動)	3		2			○								
	競技スポーツ方法論(水泳運動)	3		2			○								
	競技スポーツ方法論(表現運動)	3		2			○								
	競技スポーツ方法論(武道・格技運動)	3		2			○								
	競技スポーツ方法論(球技運動ネット・ラケット型)	3		2			○								
	競技スポーツ方法論(球技運動ゴール型)	3		2			○								
	競技スポーツ方法論(球技運動打撃・スローイング型)	3		2			○								
小計(32科目)		—	0	39	0			—	7	15	0	5	0	兼27	
専門実験演習	保健・体育学実験法	2前・後		1				○	2	4		1		兼1	※実験
	運動処方演習	2前・後		1				○	1					兼2	
	トレーニング実践演習	3前・後		1				○	1	1				兼1	
	小計(3科目)		—	0	3	0		—	3	5	0	1	0	兼4	
研究ゼミ	研究ゼミナールⅠA	3前	1					○	18	20		5		兼22	
	研究ゼミナールⅠB	3後	1					○	18	20		5		兼22	
	研究ゼミナールⅡA(卒業研究を含む)	4前	2					○	18	20		5		兼22	
	研究ゼミナールⅡB(卒業研究を含む)	4後	2					○	18	20		5		兼22	
	小計(4科目)		—	6	0	0		—	18	20	0	5	0	兼22	

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(体育学部体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門実習	キャンプ指導実習	2前		1				○	1						集中	
	スキー指導実習	2後		1				○					1		集中	
	スケート指導実習	3後		1				○		1					集中	
	水泳指導実習	2前		1				○		1					集中	
	ゴルフ指導実習	3前		1				○		1					集中	
	小計(5科目)	—	0	5	0	—			1	3	0	1	0	0		
	スポーツコーチング	ボディコンディショニング(ストレッチング実習を含む)	3前・後		2		○				1			1		兼2
		テーピング(実習を含む)	2前・後		2				○	1						兼1
		アンチドーピング	2前・後		2		○			1	1					
		スポーツコーチング理論A(陸上運動)	2前・後		2		○				2					兼2
		スポーツコーチング理論B(水泳運動)	2前・後		2		○			1						兼2
		スポーツコーチング理論C(表現・標的・記録型)	2前・後		2		○			3	3					
		スポーツコーチング理論D(武道・格闘型)	2前・後		2		○			1			1			
		スポーツコーチング理論E(球技運動:ネット/ラケット型)	2前・後		2		○			1						
		スポーツコーチング理論F(球技運動:ゴール型)	3後		2		○			1	2		1			兼1
スポーツコーチング理論G(球技運動:打撃/スローイング型)		3後		2		○			1	1		1				
スポーツコーチング理論H(野外運動)		3後		2		○			1	2						
スポーツコーチング理論I(その他の運動)		3後		2		○				1						
スポーツトレーニング論A(技術トレーニング)		3前・後		2		○			1							
スポーツトレーニング論B(体カトレーニング)		4後		2		○			1							
スポーツトレーニング論C(メンタルトレーニング)	4後		2		○						1					
小計(15科目)	—	0	30	0	—			13	13	0	5	0	兼8			
スポーツ教育	スポーツ教育総論(健康・スポーツ教育論)	1前・後		2		○									兼1	
	学校保健I(小児保健、精神保健を含む)	3前・後		2		○			1	1						
	学校安全(救急処置を含む)	3前・後		2		○				1					兼1	
	体育科教育実践法	3後		2		○				1						
	保健科教育実践法	3後		2		○			1							
	健康管理学	3前・後		2		○				1					兼1	
	人権教育	3前・後		2		○									兼3	
小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	3	0	0	0	兼6			
アスレティックトレーニング	アスレティックトレーニング論(基礎I)A	2前		2		○				1						
	アスレティックトレーニング論(基礎I)B	2後		2		○				1						
	アスレティックトレーニング論(基礎II)A	2前		2		○				1						
	アスレティックトレーニング論(基礎II)B	2後		2		○			1							
	アスレティックトレーニング論(応用I)A	3前		2		○				1						
	アスレティックトレーニング論(応用I)B	3後		2		○				1						
	アスレティックトレーニング論(応用II)A	3前		2		○									兼1	
	アスレティックトレーニング論(応用II)B	3後		2		○									兼1	
	アスレティックトレーニング論(総合I)	4後		2		○			1						兼1	
	アスレティックトレーニング論(総合II)	4後		2		○			1	1					オムニバス	
	アスレティックトレーナー実習(基礎)	2集中		1				○		1		1			兼4	
	アスレティックトレーナー実習(応用)	3集中		1				○		1		1			兼4	
アスレティックトレーナー実習(総合)	4集中		1				○		1		1			兼4		
小計(13科目)	—	0	23	0	—			2	1	0	1	0	兼5			

教育課程等の概要

(体育学部健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	生活・文化科学系	法学(日本国憲法を含む)	1前・後		2		○											
		経済学	2前・後		2		○											
		哲学	1前・後		2		○											兼2
		社会学	1前・後		2		○											兼1
		文学	2前・後		2		○			1								兼2
		芸術(音楽)	1前・後		2		○				1							兼2
		小計(6科目)	—		0	12	0	—	—	1	3	0	0	0				兼7
	生体・情報科学系	生命科学	1前・後		2		○				1							兼1
		心理学	1前・後		2		○			1								
		統計学	2前・後		2		○											兼3
		エコロジー	2前・後		2		○											兼2
		情報処理(情報機器の操作)	1前・後		2		○				2							
	小計(5科目)	—		0	10	0	—	—	2	3	0	0	0				兼6	
	外国語	英語ⅠA(外国語コミュニケーション)	1前	1				○		2	3							兼9
		英語ⅠB(外国語コミュニケーション)	1後	1				○		2	3							兼9
		英語ⅡA	2前	1				○		1	4							兼10
		英語ⅡB	2後	1				○		1	4							兼10
		ドイツ語ⅠA	2・3前			1		○			1							兼1
		中国語ⅠA	2・3前			1		○										兼2
		韓国語ⅠA	2・3前			1		○										兼1
		フランス語ⅠA	2・3			1		○										
		ドイツ語ⅠB	2・3後			1		○			1							兼1
		中国語ⅠB	2・3後			1		○										兼2
		韓国語ⅠB	2・3後			1		○										兼1
		フランス語ⅠB	2・3			1		○										
	小計(12科目)	—		4	0	8	—	—	1	2	0	0	0				兼19	
	FYE	基礎教養ゼミナール(自校史・スタディースキルを含む)	1前	1				○		1								兼5
		海浜実習(フレッシュマン教育)	1前	1					○	1								集中
		小計(2科目)	—		2	0	0	—	—	2	0	0	0	0				兼5
	社会人基礎力科目	キャリアデザイン	キャリアデザインA	1前・後		1			○									兼4
			キャリアデザインB	2前・後		1			○									兼3
			キャリアインターンシップA	3後		1				○	14	11						兼4
			キャリアインターンシップB	4後		1				○								兼4
小計(4科目)			—		0	4	0	—	—	14	1	0	0	0			兼11	
クラブ活動		クラブ活動A	1通年		1			○		14	11							兼6
		クラブ活動B	2通年		1			○		14	11							兼6
		クラブ活動C	3通年		2			○		14	11							兼6
		クラブ活動D	4通年		2			○		14	11							兼6
		小計(4科目)	—		0	6	0	—	—	14	11	0	0	0			兼6	
社会貢献		社会貢献実習A	1後		1				○	14	11							兼4
		社会貢献実習B	2後		1				○	14	11							兼1
		社会貢献実習C	3後		1				○	14	11							兼4
		社会貢献実習D	4後		1				○	14	11							
		小計(4科目)	—		0	4	0	—	—	14	11	0	0	0			兼4	

教育課程等の概要

(体育学部健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部専門科目	基礎科目	体育・スポーツ科学入門	1前	2			○			1						
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0		
	運動方法実技	運動方法・陸上運動	1前・後	1					○		3					兼3
		運動方法・水泳運動	1前	1					○	1	1					兼5
		運動方法・器械運動	1前・後	1					○	2	1					兼2
		運動方法・体づくり運動	1前・後	1					○		1					兼3
		運動方法・バレーボール	1前・後	1					○	1	2					兼1
		運動方法・バスケットボール	1前・後	1					○	1						兼3
		運動方法・武道(柔道)	1前・後		1				○		1					兼4
		運動方法・武道(剣道)	1前・後		1				○	1						兼2
		運動方法・武道(相撲)	1前・後		1				○	2	1					
		運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1前・後	1					○		2					兼2
	小計(10科目)	—	7	3	0	—			7	11	0	0	0	0	兼25	
	健康科学・スポーツ医学系	スポーツ生理学	2前・後	2			○			1	1					
		発育発達論	1前・後		2		○				2					
		機能解剖学	1前・後	2			○			2						
		衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1前・後	2			○			1	1					
		スポーツ医学	2前・後		2		○			2						オムニバス
	小計(5科目)	—	6	4	0	—			5	3	0	0	0	0		
	スポーツ社会科学文化系	スポーツ哲学	2前・後		2		○				1					
スポーツ史		2前・後		2		○				1					兼3	
スポーツ社会学		3前・後		2		○				1					兼1	
スポーツ経営管理学		3前・後		2		○			1						兼2	
スポーツ行政		3前・後		2		○			1						兼4	
スポーツ人類学		2前・後		2		○									兼3	
生涯スポーツ論		2前・後		2		○			1	1						
小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	4	0	0	0	0	兼10		
トレーニング系	トレーニング学	1前・後		2		○			1							
	スポーツ心理学	3前・後		2		○			2							
	スポーツバイオメカニクス	3前・後		2		○			1	1						
	コーチング学	2前・後		2		○			1						兼1	
	スポーツ栄養学(食品学を含む)	1前・後		2		○			1						兼1	
	測定評価学	3前・後		2		○									兼2	
小計(6科目)	—	0	12	0	—			6	1	0	0	0	0	兼4		
学部専門科目	専門運動方法I	専門運動方法I(表現運動)トランポリン	2前・後	1				○	1						兼2	
		専門運動方法I(表現運動)エアロビックエクササイズ	2前・後	1				○							兼3	
		専門運動方法I(武道・格技運動)レスリング	2前・後	1				○		1						
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)卓球	2前・後	1				○			1				兼2	
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	2前・後	1				○		1					兼2	
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	2前・後	1				○							兼1	
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	2前・後	1				○			1				兼3	
		専門運動方法I(球技運動ゴール型)サッカー	2前・後	1				○			1					
		専門運動方法I(球技運動ゴール型)ハンドボール	2前・後	1				○		1					兼1	
		専門運動方法I(球技運動ゴール型)ラグビー	2前・後	1				○			1				兼1	
		専門運動方法I(球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	2前・後	1				○		1					兼1	
		専門運動方法I(球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	2前・後	1				○			1				兼1	
		専門運動方法I(その他の運動)グループエクササイズ	2前・後	1				○							兼2	
		専門運動方法I(その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	2前・後	1				○							兼3	
		専門運動方法I(その他の運動)アーチェリー	2前・後	1				○			1				兼2	
小計(15科目)	—	0	15	0	—			5	6	0	0	0	0	兼21		

教育課程等の概要

(体育学部健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部専門科目	専門運動方法Ⅱ(陸上運動)	3前・後		1				○		2					兼1
	専門運動方法Ⅱ(水泳運動)	3前・後		1				○		1					兼6
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)器械運動	3前・後		1				○							兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)体づくり運動	3前・後		1				○	1	1					
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)トランポリン	3前		1				○	1						兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)ダンス(フォークダンスを含む)	3前・後		1				○		1					兼1
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)エアロビクエクササイズ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)柔道	3前・後		1				○		1					兼1
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)剣道	3前・後		1				○	1	1					
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)相撲	3前・後		1				○		1					
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)レスリング	3前・後		1				○	1						
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バレーボール	3前・後		1				○	1	2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)卓球	3前・後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	3前		1				○	1						兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	3前・後		1				○	1						兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)バスケットボール	3前		1				○							兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)サッカー	3前・後		1				○		1					兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ハンドボール	3前・後		1				○							兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ラグビー	3前		1				○		2					兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	3前・後		1				○							
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)グループレクリエーション	3前		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)アーチェリー	3前・後		1				○		2					兼2
	競技スポーツ方法論(陸上運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(水泳運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(表現運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(武道・格技運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動ネット・ラケット型)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動ゴール型)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動打撃・スローイング型)	3		2				○							
小計(32科目)		—	0	39	0			—	7	11	0	0	0	兼27	
専門実験演習	保健・体育学実験法	2前・後		1				○	2	4					兼1 ※実験
	運動処方演習	2前・後		1				○	1						兼2
	トレーニング実践演習	3前・後		1				○	1	1					兼1
	小計(3科目)		—	0	3	0		—	3	5	0	0	0	兼4	
研究ゼミ	研究ゼミナールⅠA	3前	1					○	14	11					兼22
	研究ゼミナールⅠB	3後	1					○	14	11					兼22
	研究ゼミナールⅡA(卒業研究を含む)	4前	2					○	14	11					兼22
	研究ゼミナールⅡB(卒業研究を含む)	4後	2					○	14	11					兼22
	小計(4科目)		—	6	0	0		—	14	11	0	0	0	兼22	

教育課程等の概要

(体育学部健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科専門科目	救急処置	2後		2		○										兼1	
	健康管理学	4前		2		○			1	1							
	労働生理	4後		2		○			1								
	労働衛生	4後		2		○										兼1	
	労働関係法規Ⅰ	4後		2		○											
	労働関係法規Ⅱ	4後		2		○											
	精神保健	1前		2		○											兼1
	教育カウンセリング	3前		2		○			1								
	学校保健Ⅰ(小児保健、精神保健を含む)	3前		2		○			2								
	基礎看護学	2前		2		○			1								
	臨床看護学	3前		2		○			1								
	ヘルスカウンセリング	3後		2		○			1								
	養護概説(養護教諭の職務を含む)	1後		2		○			1								
	栄養学(学校給食を含む)	2前		2		○			1								
	教育心理学	2後		2		○											兼1
	学習指導論	3後		2		○											兼1
	救急処置実習(テーピングを含む)	3前・後		1				○									兼1
	免疫学	4前		2		○				1							
	微生物学	2前		2		○				1							
	予防医学	4後		2		○											兼1
	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	3前		2		○				1							
	精神医学	2前		2		○			1								
	学校保健Ⅱ(保健室経営を含む)	3後		2		○			1								
	衛生学・公衆衛生学実験実習	3前・後		1				○	1								
	学校安全(救急処置を含む)	3後		2		○											兼1
	臨床心理学(カウンセリングを含む)	3後		2		○			1								
	医療福祉	4前		2		○			1								
	医学概論	3前		2		○			1								
	社会福祉Ⅰ	1後		2		○				1							
	高齢者福祉と介護Ⅰ	2前		2		○				1							
	児童・家庭福祉	3前		2		○											兼1
	障害福祉	3前		2		○			1								
	社会福祉調査	4前		2		○				1							
	ソーシャルワーク概論A	1後		2		○				1							
	ソーシャルワーク概論B	2後		2		○				1							
	社会保障A	3前		2		○											兼1
	地域福祉A	3前		2		○				1							
	障害リハビリテーション学	2前		2		○			1								
	アダプテッドスポーツ論	4前		2		○			1								
	体育科教育法	2前		2		○				1							
	保健科教育法	2前		2		○			1								
	人権教育	3後		2		○											兼1
	相談援助演習Ⅰ	3前		1			○		1	2							
	相談援助演習ⅡA	3後		1			○		1	2							
	相談援助演習ⅡB	3後		1			○		1	2							
小計(45科目)		—	0	85	0	—		9	6	0	0	0	0	0	0	兼10	

教育課程等の概要

(体育学部健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
資格関連科目	(養護・保健系) 教職専門科目 (養護・保健共通)	教育原理	1前			2	○			1							
		道徳教育の研究	2前			2	○										兼1
		特別活動の研究	2後			2	○										兼1
		生徒指導論(進路指導を含む)	3後			2	○				1						
		総合演習	3通年			2		○			1						
		教育課程論	3後			2	○										兼1
	小計(6科目)	—	0	0	12	—	—	—	1	2	0	0	0	0		兼3	
	(養護・保健系) 教職専門科目 (養護・保健専門)	教育経営	3前			2	○										兼1
		事前事後の指導(養護)	4前			1		○		1							集中
		養護実習	4前			4			○	1							集中
		教師論(養護)	3後			2	○										兼1
		看護臨床実習	3前			5			○	1							集中
		事前事後の指導	4前			1		○									兼1
		教育実習	4前・後			4			○	1							集中
教師論	3前			2	○			1									
教職実践演習	4後			2		○											
教職実践演習(養護)	4後			2		○											
小計(10科目)	—	0	0	25	—	—	—	4	0	0	0	0	0		兼3		
(講義系) 社会福祉専門科目	社会福祉Ⅱ	4後			2	○											
	高齢者福祉と介護Ⅱ	3後			2	○				1							
	社会保障B	3後			2	○										兼1	
	生活保護	3前			2	○										兼1	
	ソーシャルワークA	3集中			2	○			1							集中	
	ソーシャルワークB	3集中			2	○				1						集中	
	ソーシャルワークC	3集中			2	○				1						集中	
	ソーシャルワークD	3集中			2	○				1						集中	
	地域福祉B	3後			2	○				1							
	社会福祉行政と福祉計画	4集中			2	○			1							集中	
	福祉経営	4集中			2	○				1						集中	
	雇用政策	4集中			1	○			1							集中	
	権利擁護と成年後見	4集中			2	○										兼1	
司法福祉	4集中			1	○			1							集中		
小計(14科目)	—	0	0	26	—	—	—	1	2	0	0	0	0		兼3		
(演習・実習系) 社会福祉専門科目	相談援助実習指導Ⅰ	3集中			1		○			2						集中	
	相談援助実習指導Ⅱ	4集中			1		○			2						集中	
	相談援助実習指導Ⅲ	4集中			1		○			2						集中	
	相談援助演習Ⅲ	4前			1		○			2							
	相談援助演習Ⅳ	4後			1		○			2							
	相談援助実習	4集中			6			○		2						集中	
小計(6科目)	—	0	0	11	—	—	—	0	2	0	0	0	0		0		
合計(201科目)		—	27	211	82	—	—	—	14	11	0	0	0	0	兼80		
学士又は称号		学士(体育学)		学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
<健康教育専攻・福祉支援専攻>教養教育科目から必修科目4単位、選択科目12単位以上、社会人基礎力科目から選択科目2単位以上、学部専門科目から必修科目21単位、選択科目22単位以上、学科専門科目から選択科目63単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修単位の年間登録の上限:1年35単位、2年40単位、3年45単位、4年 30単位)						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

教育課程等の概要

(体育学部武道学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	生活・文化科学系	法学(日本国憲法を含む)	1前・後	2			○				1							
		経済学	2前・後	2			○											
		哲学	1前・後	2			○											兼2
		社会学	1前・後	2			○											兼1
		文学	2前・後	2			○				1							兼2
		芸術(音楽)	1前・後	2			○					1		1				兼2
		小計(6科目)	—	0	12	0			—		1	3	0	1	0			兼7
	生体・情報科学系	生命科学	1前・後		2			○				1						兼1
		心理学	1前・後		2			○			1							
		統計学	2前・後		2			○			1							
		エコロジー	2前・後		2			○										兼3
		情報処理(情報機器の操作)	1前・後		2			○				2						兼2
	小計(5科目)	—	0	10	0			—		2	3	0	0	0			兼6	
	外国語	英語 I A(外国語コミュニケーション)	1前	1					○		2	3						兼9
		英語 I B(外国語コミュニケーション)	1後	1					○		2	3						兼9
		英語 II A	2前			1			○		1	4						兼10
		英語 II B	2後			1			○		1	4						兼10
		ドイツ語 I A	2・3前			1			○			1						兼1
		中国語 I A	2・3前			1			○									兼2
		韓国語 I A	2・3前			1			○									兼1
		フランス語 I A	2・3			1			○									
		ドイツ語 I B	2・3後			1			○			1						兼1
		中国語 I B	2・3後			1			○									兼2
		韓国語 I B	2・3後			1			○									兼1
		フランス語 I B	2・3			1			○									
	小計(12科目)	—	2	0	10			—		1	2	0	0	0			兼19	
	F Y E	基礎教養ゼミナール(自校史・スタディースキルを含む)	1前	1					○		1							兼5
海浜実習(フレッシュマン教育)		1前	1					○		1							集中	
小計(2科目)		—	2	0	0			—		2	0	0	0	0			兼5	
社会人基礎力科目	キャリアデザイン	キャリアデザインA	1前・後		1				○								兼4	
		キャリアデザインB	2前・後		1				○								兼3	
		キャリアインターンシップA	3後		1					○	9	6		2			兼4	
		キャリアインターンシップB	4後		1					○							兼4	
		小計(4科目)	—	0	4	0			—		9	6	0	2	0		兼11	
	クラブ活動	クラブ活動A	1通年		1				○		9	6		1			兼6	
		クラブ活動B	2通年		1				○		9	6		1			兼6	
		クラブ活動C	3通年		2				○		9	6		1			兼6	
		クラブ活動D	4通年		2				○		9	6		1			兼6	
		小計(4科目)	—	0	6	0			—		9	6	0	1	0		兼6	
	社会貢献	社会貢献実習A	1後		1					○	9	6		2			兼4	
		社会貢献実習B	2後		1					○	9	6		2			兼1	
		社会貢献実習C	3後		1					○	9	6		2			兼4	
		社会貢献実習D	4後		1					○	9	6		2				
小計(4科目)		—	0	4	0			—		9	6	0	2	0		兼4		

教育課程等の概要

(体育学部武道学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部専門科目	基礎科目 体育・スポーツ科学入門	1前	2			○			1						
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
	運動方法実技	運動方法・陸上運動	1前・後	1					○		3				兼3
	運動方法・水泳運動	1前	1						○	1	1				兼5
	運動方法・器械運動	1前・後	1						○	2	1				兼2
	運動方法・体づくり運動	1前・後	1						○		1	1			兼3
	運動方法・バレーボール	1前・後	1						○	1	2				兼1
	運動方法・バスケットボール	1前・後	1						○	1		1			兼3
	運動方法・武道(柔道)	1前・後	1	1					○		1	1			兼4
	運動方法・武道(剣道)	1前・後	1	1					○	1		1			兼2
	運動方法・武道(相撲)	1前・後	1	1					○	2	1	1			
	運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1前・後	1						○		2	1			兼2
	小計(10科目)	—	—	7	3	0	—			7	6	0	2	0	兼25
	健康科学・スポーツ医学系	スポーツ生理学	2前・後		2		○			1	1				
	発育発達論	1前・後		2			○				2				
	機能解剖学	1前・後		2			○			2					
	衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1前・後		2			○			1	1				
	スポーツ医学	2前・後		2			○			2					オムニバス
	小計(5科目)	—	—	0	10	0	—			5	3	0	0	0	0
	スポーツ文化・社会科学系	スポーツ哲学	2前・後		2		○				1				
	スポーツ史	2前・後		2			○				1				兼3
	スポーツ社会学	3前・後		2			○				1				兼1
	スポーツ経営管理学	3前・後		2			○			1					兼2
	スポーツ行政	3前・後		2			○			1					兼4
	スポーツ人類学	2前・後		2			○								兼3
	生涯スポーツ論	2前・後		2			○			1	1				
	小計(7科目)	—	—	0	14	0	—			2	4	0	0	0	兼10
	トレーニング科学系	トレーニング学	1前・後		2		○			1					
	スポーツ心理学	3前・後		2			○			2					
	スポーツバイオメカニクス	3前・後		2			○			1	1				
	コーチング学	2前・後		2			○			1					兼1
	スポーツ栄養学(食品学を含む)	1前・後		2			○			1					兼1
	測定評価学	3前・後		2			○								兼2
小計(6科目)	—	—	0	12	0	—			6	1	0	0	0	兼4	
学部専門科目	専門運動方法Ⅰ(表現運動)トランポリン	2前・後		1					○	1					兼2
専門運動方法Ⅰ(表現運動)エアロビックエクササイズ	2前・後		1						○					兼3	
専門運動方法Ⅰ(武道・格技運動)レスリング	2前・後		1						○	1		1			
専門運動方法Ⅰ(球技運動ネット・ラケット型)卓球	2前・後		1						○		1			兼2	
専門運動方法Ⅰ(球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	2前・後		1						○	1				兼2	
専門運動方法Ⅰ(球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	2前・後		1						○			1		兼1	
専門運動方法Ⅰ(球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	2前・後		1						○		1			兼3	
専門運動方法Ⅰ(球技運動ゴール型)サッカー	2前・後		1						○	1		1			
専門運動方法Ⅰ(球技運動ゴール型)ハンドボール	2前・後		1						○	1		1		兼1	
専門運動方法Ⅰ(球技運動ゴール型)ラグビー	2前・後		1						○		1			兼1	
専門運動方法Ⅰ(球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	2前・後		1						○	1		1		兼1	
専門運動方法Ⅰ(球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	2前・後		1						○		1			兼1	
専門運動方法Ⅰ(その他の運動)グループレクリエーション	2前・後		1						○					兼2	
専門運動方法Ⅰ(その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	2前・後		1						○					兼3	
専門運動方法Ⅰ(その他の運動)アーチェリー	2前・後		1						○		1			兼2	
小計(15科目)	—	—	0	15	0	—			5	6	0	2	0	兼21	

教育課程等の概要

(体育学部武道学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部専門科目	専門運動方法Ⅱ(陸上運動)	3前・後		1				○		2					兼1
	専門運動方法Ⅱ(水泳運動)	3前・後		1				○		1					兼6
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)器械運動	3前・後		1				○							兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)体づくり運動	3前・後		1				○	1	1					
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)トランポリン	3前		1				○	1						兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)ダンス(フォークダンスを含む)	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)エアロビクエクササイズ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)柔道	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)剣道	3前・後		1				○	1	1		1			
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)相撲	3前・後		1				○		1		1			
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)レスリング	3前・後		1				○	1			1			
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バレーボール	3前・後		1				○	1	2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)卓球	3前・後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	3前		1				○	1						兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	3前・後		1				○	1			2			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)バスケットボール	3前		1				○				1			兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)サッカー	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ハンドボール	3前・後		1				○				1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ラグビー	3前		1				○		2					兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	3前・後		1				○					2		
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)グループレクリエーション	3前		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)アーチェリー	3前・後		1				○		2					兼2
	競技スポーツ方法論(陸上運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(水泳運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(表現運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(武道・格技運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動ネット・ラケット型)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動ゴール型)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動打撃・スローイング型)	3		2				○							
小計(32科目)		—	0	39	0			—	7	6	0	2	0	兼27	
専門実験演習	保健・体育学実験法	2前・後		1				○	2	4		1		兼1	※実験
	運動処方演習	2前・後		1				○	1					兼2	
	トレーニング実践演習	3前・後		1				○	1	1				兼1	
	小計(3科目)	—	0	3	0			—	3	5	0	1	0	兼4	
研究ゼミ	研究ゼミナールⅠA	3前		1				○	9	6		2		兼22	
	研究ゼミナールⅠB	3後		1				○	9	6		2		兼22	
	研究ゼミナールⅡA(卒業研究を含む)	4前		2				○	9	6		2		兼22	
	研究ゼミナールⅡB(卒業研究を含む)	4後		2				○	9	6		2		兼22	
	小計(4科目)	—	6	0	0			—	9	6	0	2	0	兼22	

教育課程等の概要

(体育学部武道学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻共通	武道概論(武道文化史を含む)	2後		2		○										兼1	
	異文化コミュニケーション1(英会話)	2前・後		1		○										兼1	
	異文化コミュニケーション2(外国事情)	2前・後		2		○										兼1	
	礼法(茶道弓道)	2		1				○									
	芸道論	4後		2		○										兼1	
	伝統文化交流実習	3後		1				○		1							集中
	外国語実践実習	3後		1				○		1							
	武道論(倫理)	4後		2		○					1						
	武道実技(弓道)	3前・後		1				○									兼2
	武道技術論(柔剣相空少雑合弓)	3前		2		○				2	1						兼5
	専攻武道実技1(柔剣相空少雑合弓)	1通年		2				○		1	2						兼6
	専攻武道実技2(柔剣相空少雑合弓)	2通年		2				○			1		1				兼6
	専攻武道実技3(柔剣相空少雑合弓)	2通年		2				○		1	2			1			兼6
	専攻武道実技4(柔剣相空少雑合弓)	3通年		2				○			1				1		兼6
	専攻武道実技5(柔剣相空少雑合弓)	3通年		2				○		1	2						兼6
	専攻武道実技6(柔剣相空少雑合弓)	4通年		2				○		1	1						兼6
	武道用具論	3前		2			○			1							
	武道科教育法	3後		2			○				1						
	武道書籍講読	4後		2			○				1						
	武道史各論1	2前		2			○				1						
	武道史各論2	2前		2			○										兼1
	専攻外武道実技(空手)	2後		1					○								兼1
	専攻外武道実技(少林寺拳法)	2後		1					○								兼1
	専攻外武道実技(合気道)	2後		1					○								兼1
	専攻外武道実技(なぎなた)	2後		1					○								兼1
	小計(25科目)			0	41	0			—		4	4	0	2	0		
	武道教育	比較舞踊学	2前			2	○										兼1
舞踊創作論(作品論を含む)		2後			2	○										兼1	
武道実技(形)		1後			1			○								兼1	
伝統芸能史		1後			2	○										兼1	
伝統芸能実習Ⅰ		2集中			1			○								兼1	
伝統芸能実習Ⅱ		3集中			1			○			1					集中	
芸能稽古論(能舞踊)		4			2	○										集中	
比較舞踊学実習		3集中			1			○								兼1	
伝統芸能論		3後			2	○										兼1	
芸能鑑賞論		4後			2	○										兼1	
身体論		4後			2	○				1							
伝統芸能実技1		1前			1			○									兼1
伝統芸能実技2		1後			1			○					1				
伝統芸能実技3		2前			1			○									兼1
伝統芸能実技4		2後			1			○									兼1
伝統芸能実技5		3後			1			○									兼1
伝統芸能実技6	3前			1			○					1					
小計(17科目)			0	0	24			—		1	1	0	1	0			

教育課程等の概要

(体育学部武道学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科専門科目	伝統芸能	比較舞踊学		2		○									兼1	集中 集中 集中	
		舞踊創作論(作品論を含む)	2後	2		○											兼1
		武道実技(形)	1後	1				○									兼1
		伝統芸能史	1後	2		○											兼1
		伝統芸能実習Ⅰ	2集中	1					○								兼1
		伝統芸能実習Ⅱ	3集中	1					○		1						兼1
		芸能稽古論(能舞踊)	4	2			○										兼1
		比較舞踊学実習	3集中	1					○								兼1
		伝統芸能論	3後	2			○										兼1
		芸能鑑賞論	4後	2			○										兼1
		身体論	4後	2			○			1							兼1
		伝統芸能実技1	1前	1													兼1
		伝統芸能実技2	1後	1										1			兼1
		伝統芸能実技3	2前	1													兼1
		伝統芸能実技4	2後	1													兼1
		伝統芸能実技5	3後	1													兼1
		伝統芸能実技6	3前	1										1			兼1
小計(17科目)		—	0	24	0	—			1	1	0	2	0	兼28			
資格関連科目	(武道書教育)	読書と豊かな人間性	1前			2	○								兼1		
		情報メディアの活用	1前			2	○								兼1		
		学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼1		
		学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼1		
		学習指導と学校図書館	2前			2	○								兼1		
	小計(5科目)		—	0	0	10	—			0	0	0	0	0	兼3		
	(伝統芸能)	読書と豊かな人間性	1前			2	○								兼1		
		情報メディアの活用	1前			2	○								兼1		
		学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼1		
		学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼1		
学習指導と学校図書館		2前			2	○								兼1			
小計(5科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼3			
資格関連科目	教職科目(専攻共通)	教育原理	1後			2	○			1							
		教育心理学	2後			2	○				1						
		学習指導論	3後			2	○								兼1		
		体育科教育法	2前			2	○				1						
		保健科教育法	2前			2	○								兼1		
		道德教育の研究	2後			2	○								兼1		
		特別活動の研究	2前			2	○								兼1		
		生徒指導論(進路指導を含む)	3前			2	○								兼1		
		教育課程論	3後			2	○								兼1		
		教師論	3前			2	○			1							
		教育経営	3後			2	○								兼1		
		教育カウンセリング	3前			2	○			1							
		総合演習	3通年			2			○			1					
		体育科指導法(器械運動)	3・4後			1			○				2		兼2		
		体育科指導法(陸上運動)	3・4前・後			1			○								
		体育科指導法(体操(体づくり運動))	3・4前・後			1			○		2						
		体育科指導法(水泳運動)	3・4後			1			○			1			兼1		
体育科指導法(バレーボール)	3・4後			1			○						兼1				
体育科指導法(バスケットボール)	3・4後			1			○		1								
教職実践演習	4後			2			○							兼1			
事前事後の指導	4前			1			○							兼1			
教育実習	4前・後			4			○		1					兼1			
小計(22科目)		—	0	39	0	—			6	4	0	0	0	兼12			

教育課程等の概要

(体育学部武道学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格関連科目	健康管理学	3後		2		○									兼1
	学校保健Ⅰ(小児保健、精神保健を含む)	3前・後		2		○			1						兼1
	学校安全(救急処置を含む)	3後		2		○									兼1
	人権教育	3前		2		○									兼1
	テーピング(実習を含む)	2前		2				○	1						
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼4	
実習	キャンプ指導実習	2前		1				○	1						集中
	スキー指導実習	2後		1				○			1				集中
	スケート指導実習	3後		1				○		1					集中
	小計(3科目)	—	0	3	0	—	—	1	1	0	1	0	0		
合計(219科目)		—	19	259	44	—	—	9	6	0	2	0	兼114		
学士又は称号		学士(体育学)	学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p><武道教育専攻> 教養教育科目から必修科目4単位、選択科目12単位以上、社会人基礎力科目から選択科目4単位以上、学部専門科目から必修科目15単位、選択科目37単位以上、学科専門科目から必修科目27単位、選択科目5単位以上、資格関連科目から選択科目20単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修単位の年間登録の上限:1~3年 各40単位、4年 30単位)</p> <p><伝統芸能専攻> 教養教育科目から必修科目4単位、選択科目12単位以上、社会人基礎力科目から選択科目4単位以上、学部専門科目から必修科目15単位、選択科目37単位以上、学科専門科目から必修科目37単位、選択科目1単位以上、資格関連科目から選択科目14単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修単位の年間登録の上限:1~3年 各40単位、4年 30単位)</p>						1学年の学期区分		2学期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要

(体育学部社会体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部専門科目	基礎科目 体育・スポーツ科学入門	1前	2			○			1							
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0		
	運動方法実技	運動方法・陸上運動	1前・後	1					○		3					兼3
		運動方法・水泳運動	1前	1					○	1	1					兼5
		運動方法・器械運動	1前・後	1					○	2	1					兼2
		運動方法・体づくり運動	1前・後	1					○		1		1			兼3
		運動方法・バレーボール	1前・後	1					○	1	2					兼1
		運動方法・バスケットボール	1前・後	1					○	1			1			兼3
		運動方法・武道(柔道)	1前・後		1				○		1		1			兼4
		運動方法・武道(剣道)	1前・後		1				○	1			1			兼2
		運動方法・武道(相撲)	1前・後		1				○	2	1		1			
		運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1前・後	1					○		2		1			兼2
	小計(10科目)	—	7	3	0	—			8	9	0	1	0		兼25	
	ポーツ健康科学・スポーツ医学系	スポーツ生理学	2前・後		2		○			1	1					
		発育発達論	1前・後		2		○				2					
		機能解剖学	1前・後		2		○			2						
		衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1前・後		2		○			1	1					
		スポーツ医学	2前・後		2		○			2						オムニバス
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			5	3	0	0	0	0		
	スポーツ社会科学文化系	スポーツ哲学	2前・後		2		○				1					
		スポーツ史	2前・後		2		○				1					兼3
		スポーツ社会学	3前・後		2		○				1					兼1
		スポーツ経営管理学	3前・後		2		○			1						兼2
		スポーツ行政	3前・後		2		○				1					兼4
		スポーツ人類学	2前・後		2		○									兼3
		生涯スポーツ論	2前・後		2		○			1	1					
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	4	0	0	0		兼10	
	トレーニング系	トレーニング学	1前・後		2		○			1						
		スポーツ心理学	3前・後		2		○			2						
		スポーツバイオメカニクス	3前・後		2		○			1	1					
コーチング学		2前・後		2		○			1						兼1	
スポーツ栄養学(食品学を含む)		1前・後		2		○			1						兼1	
測定評価学		3前・後		2		○									兼2	
小計(6科目)	—	0	12	0	—			6	1	0	0	0		兼4		
学部専門科目	専門運動方法I	専門運動方法I(表現運動)トランポリン	2前・後		1				○	1						兼2
		専門運動方法I(表現運動)エアロビックエクササイズ	2前・後		1				○							兼3
		専門運動方法I(武道・格技運動)レスリング	2前・後		1					○	1		1			
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)卓球	2前・後		1					○		1				兼2
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	2前・後		1					○	1					兼2
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	2前・後		1					○			1			兼1
		専門運動方法I(球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	2前・後		1					○		1				兼3
		専門運動方法I(球技運動ゴール型)サッカー	2前・後		1					○		1		1		
		専門運動方法I(球技運動ゴール型)ハンドボール	2前・後		1					○	1			1		兼1
		専門運動方法I(球技運動ゴール型)ラグビー	2前・後		1					○		1				兼1
		専門運動方法I(球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	2前・後		1					○	1			1		兼1
		専門運動方法I(球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	2前・後		1					○		1				兼1
		専門運動方法I(その他の運動)グループレクリエーション	2前・後		1					○						兼2
		専門運動方法I(その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	2前・後		1					○						兼3
		専門運動方法I(その他の運動)アーチェリー	2前・後		1					○		1				兼2
小計(15科目)	—	0	15	0	—			5	6	0	1	0		兼21		

教育課程等の概要

(体育学部社会体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部専門科目	専門運動方法Ⅱ(陸上運動)	3前・後		1				○		2					兼1
	専門運動方法Ⅱ(水泳運動)	3前・後		1				○		1					兼6
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)器械運動	3前・後		1				○							兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)体づくり運動	3前・後		1				○	1	1					
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)トランポリン	3前		1				○	1						兼2
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)ダンス(フォークダンスを含む)	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(表現運動)エアロビックエクササイズ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)柔道	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)剣道	3前・後		1				○	1	1		1			
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)相撲	3前・後		1				○		1		1			
	専門運動方法Ⅱ(武道・格技運動)レスリング	3前・後		1				○	1			1			
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バレーボール	3前・後		1				○	1	2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)卓球	3前・後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)ソフトテニス	3前		1				○	1						兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)バドミントン	3前・後		1				○	1			2			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ネット・ラケット型)硬式テニス	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)バスケットボール	3前		1				○				1			兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)サッカー	3前・後		1				○		1		1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ハンドボール	3前・後		1				○				1			兼1
	専門運動方法Ⅱ(球技運動ゴール型)ラグビー	3前		1				○		2					兼2
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ソフトボール・野球	3前・後		1				○					2		
	専門運動方法Ⅱ(球技運動打撃・スローイング型)ゴルフ	3前・後		1				○		2					
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)グループレクリエーション	3前		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)ローオーガナイズドスポーツ	3後		1				○							兼3
	専門運動方法Ⅱ(その他の運動)アーチェリー	3前・後		1				○		2					兼2
	競技スポーツ方法論(陸上運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(水泳運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(表現運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(武道・格技運動)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動ネット・ラケット型)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動ゴール型)	3		2				○							
	競技スポーツ方法論(球技運動打撃・スローイング型)	3		2				○							
小計(32科目)		—	0	39	0		—		7	9	0	1	0	兼27	
専門実験演習	保健・体育学実験法	2前・後		1				○	2	4		1		兼1	※実験
	運動処方演習	2前・後		1				○	1					兼2	
	トレーニング実践演習	3前・後		1				○	1	1				兼1	
	小計(3科目)		—	0	3	0		—	3	5	0	1	0	兼4	
研究ゼミ	研究ゼミナールⅠA	3前	1					○	8	9		1		兼22	
	研究ゼミナールⅠB	3後	1					○	8	9		1		兼22	
	研究ゼミナールⅡA(卒業研究を含む)	4前	2					○	8	9		1		兼22	
	研究ゼミナールⅡB(卒業研究を含む)	4後	2					○	8	9		1		兼22	
	小計(4科目)		—	6	0	0		—	8	9	0	1	0	兼22	

教育課程等の概要

(体育学部社会体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専門科目 (専攻共通)	生涯学習概論Ⅰ	1後		2		○			1							
	野外活動と環境	4後		2		○				1						
	野外活動実技	2前・後		1				○	1							
	ネイチャーゲーム	2前・後		1				○	1							
	野外活動における安全管理	4後		2		○				1						
	生涯学習概論Ⅱ	2前		2		○									兼1	
	社会教育計画Ⅰ	2後		2		○									兼1	
	社会教育計画Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	現代の子供と社会教育	3前		2		○									兼1	
	ボランティアと社会教育	4後		2		○			1							
	情報化と社会教育	4後		2		○			1							
	社会教育施設論	4後		2		○			1							
	社会教育演習Ⅰ	3前		1				○	1						兼1	
	社会教育演習Ⅱ	3後		1				○							兼2	
	社会教育実習	3		2					○	1						
	地域福祉と社会教育	4前		2		○									兼1	
	野外活動概論	1後		2		○			1							
	スポーツライフマネジメント	1前		2		○									兼1	
	スポーツマーケティングマネジメント	3前		2		○									兼1	
	スポーツサービスマネジメント	2		2		○										
	社会調査演習	3後		1				○							兼1	
	テーピング(実習を含む)	2後		2					○	1					兼1	
	健康管理学	3前		2		○					1					
	救急処置実習	3前・後		1					○		1					
	ストレッチング実習	3前・後		1					○				1			
	障害者スポーツ論	2前		2		○				1						
	障害者スポーツ実技	2前		1					○				1			
	障害者スポーツ現場実習	2集中		2					○	1						集中
	レクリエーション概論	1後		2		○				1						
	レクリエーション実技	1前・後		1					○		1					
	ローオーガナイズドスポーツ実技	4前		1					○						兼1	
	レクリエーション現場実習	3集中		1					○	1						集中
	人権教育	3後		2		○									兼1	
	学校保健Ⅰ(小児保健、精神保健を含む)	3前・後		2		○				1	1					
	学校安全(救急処置を含む)	3後		2		○									兼1	
	スキー理論・実習	2後		3					○				1			
	マリンスポーツ理論・実習	2前		3					○		1					
	キャンプ理論・実習	2前		3					○	1						
	スケート理論・実習	3後		3					○		1					
	ゴルフ理論・実習	3前		3					○		1					
小計(40科目)		—	0	74	0	—			5	5	0	1	0	兼9		

教育課程等の概要

(体育学部社会体育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学科専門科目 (専攻共通)	教職専門科目	教師論	3前		2		○			1								
		教育心理学	2後		2		○				1							
		体育科教育法	2前		2		○				1							
		保健科教育法	2前		2		○				1							
		教育原理	1後		2		○				1							
		教育経営	3後		2		○										兼1	
		教育課程論	3前		2		○										兼1	
		特別活動の研究	2前		2		○										兼1	
		教育カウンセリング	3前		2		○				1							
		小計(9科目)	—		0	18	0	—	—	—	4	2	0	0	0		兼3	
資格関連科目 (専攻共通)	教職専門科目	道德教育の研究	2後			2	○										兼1	
		学習指導論	3後			2	○										兼1	
		生徒指導論(進路指導を含む)	3後			2	○					1						
		教職実践演習	4後			2		○										
		総合演習	3通年			2		○				1						
		教育実習	4前・後			4			○		1							集中
		事前事後の指導	4前			1			○								兼1	
小計(7科目)	—		0	0	15	—	—	—	1	2	0	0	0		兼3			
合計(176科目)		—		21	224	23	—	—	8	9	0	1	0		兼84			
学士又は称号		学士(体育学)	学位又は学科の分野			体育関係												
卒業要件及び履修方法						授業期間等												
<地域スポーツ専攻・スポーツマネジメント専攻・アウトドアスポーツ専攻・セラピューティックレクリエーション専攻>教養教育科目から必修科目4単位、選択科目12単位以上、社会人基礎力科目から選択科目8単位以上、学部専門科目から必修科目15単位、選択科目32単位以上、学科専門科目から選択科目53単位以上、合計124単位以上修得すること。 (履修単位の年間登録の上限:1~3年 各40単位、4年 30単位)						1学年の学期区分			2学期									
						1学期の授業期間			15週									
						1時限の授業時間			90分									

授 業 科 目 の 概 要			
(児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通科目	言語 コミュニケーション 科目	基礎英語Ⅰ (英文) The goal of this class is to improve the students' foundation in English with a focus on communication by building up the basic skills necessary for interacting with others at home, at work or abroad. To this end, all skill levels will be developed, with a particular emphasis on grammar, vocabulary, listening and speaking. Students will also be encouraged to begin writing in English, starting with sentences and building up to paragraphs. This will give students the freedom to express themselves creatively and to find a new delight in learning English. (和訳) 本講義の目標は、家庭、職場、および海外にて他者と交流を行う上で必要な基礎的スキルを築きあげること、コミュニケーション能力を向上させることに焦点をあてながら英語の土台を改善する。 最終的には、特に文法、用語、スピーキングやリスニングなど、あらゆるスキルを発展させるようにしたい。また、文章を一文から書きはじめ、文章を書けるようにもしたい。こうしたことを行うことで生徒たちは、自分たちを創造的に表現する自由を得て、英語を学ぶ上で新しい喜びを見いだす事ができることを目標とする。	(クラス分け)
学部 共通科目	言語 コミュニケーション 科目	基礎英語Ⅱ (英文) The goal of this class is to improve the students' foundation in English with a focus on communication by building up the basic skills necessary for interacting with native speakers at home, at work or abroad. To this end, the linguistic skills developed in基礎英語Ⅰ will be reviewed, reinforced and more fully developed, so that students can blossom in the language and will be well-rounded individuals. We will also take into account study skills, learning styles, and cultural differences. Pair work, group work and free discussions are always part of the lessons. (和訳) 本講義の目標は、ネイティブスピーカーと家庭、職場、あるいは海外で交流を行う上で必要な基礎的スキルに焦点をあてることで学生の英語の土台を改善することである。 最終的には、「基礎英語Ⅰ」で発展させてきた言語スキルを復習し、強化し、より完全に発展させることによって、学生たちは、言語力を開花させ、多才な人間となることができる。また、学習スキルや学習スタイルや文化的差異についても考慮に入れつつ、レッスンの一部にペアワーク、グループワーク、またはフリーディスカッションなどを常に取り入れる。	(クラス分け)
学部 共通科目	言語 コミュニケーション 科目	英語コミュニケーションⅠ (英文) The goal of this class will be to enhance the students' skills after their active participation in and successful completion of the foundational courses基礎英語Ⅰ & Ⅱ. They will learn to communicate appropriately in a variety of situations from casual to formal, and will develop sensitivity to others. They will acquire the capacity to discuss a variety of social problems and other points of interest with their peers from around the world, and will be encouraged to do so with gentleness and respect for one another, especially those who are different. (和訳) 本講義の目標は、「基礎英語Ⅰ」および「基礎英語Ⅱ」といった土台となる講義に積極的に参加し、単位を取得した学生のスキルを拡充することである。学生たちは、日常や公式の場など様々な場面での適切なコミュニケーションを学び、他者との感受性を発展させるであろう。学生たちが、世界中の同僚と様々な社会的問題や様々な視点の関心事を議論する能力を獲得する。また学生はこうしたことを自分とは異なった人びとと、紳士的に、そして他者に配慮して行うことができるようになることを目指す。	(クラス分け)

学部共通科目	言語コミュニケーション科目	英語コミュニケーションⅡ	<p>(英文) The goal of this class will be to enhance the students' skills after their active participation in and successful completion of the foundational courses基礎英語Ⅰ&Ⅱ. Augmenting activities practiced in英語コミュニケーションⅠ, the students will learn how to debate and how to disagree with one another without hurting each other's feelings. This is a delicate skill which will stand them in good stead in all the languages they learn, while preparing them for their future by making sure they have the capacity to be lifelong learners after they graduate. Enthusiasm is the key.</p> <p>(和訳) 本講義の目標は、「基礎英語Ⅰ」および「基礎英語Ⅱ」といった土台となる講義に積極的に参加し、単位を取得した学生のスキルを拡充することである。英語コミュニケーションⅠにおいて練習した議論活動を拡充し、学生たちは議論のしかたや、他者の感情を傷つけずに異なった人びとに議論することを学ぶであろう。こうしたことは、学生たちが卒業後も生涯にわたる学習者である能力を有することを確実にし、将来の準備を行う一方で、学生たちが学ぶであろうあらゆる言語において非常に役立つ繊細なスキルとなる。熱意こそが鍵である。</p>	(クラス分け)
学部共通科目	教養科目	現代社会と憲法	<p>スポーツにルールがあるように、国家、社会にもルールがある。このルールを一般的に法と読んでいます。法がすべて「よき法」であるならば、これに従って生きる私たちは幸福であろう。</p> <p>しかし現実には必ずしもそうではない。現実を踏まえて、法のあり方、法の役割について考えていきたい。特に憲法が私たちの生活とどのように関わっているのかを、人権規定とその現実の運用を見ていくことによって考える。法をとおして社会の仕組みを知ることにより、社会において主体的に行動する社会人、自分の意見を持った自律的個人になること目標とする。</p>	
学部共通科目	教養科目	情報機器の操作	<p>本講義では、教職を目指す受講生を対象として、1. 授業用情報システム、2. MUA・エディタ・表計算等のソフトウェア、3. デジタルファイルの複製や管理について理解することにより、教職についての勉強時からパーソナルコンピュータを活用できるようにするための素養を身につける。</p> <p>具体的には、受講生は、コンピュータ操作を実際に行いながら、情報機器の活用のための基礎的な知識の習得とその端末操作のやり方について学習を進める。</p>	
学部共通科目	教養科目	こころと行動の科学	<p>心理学は何を研究するのか。「魂」から「こころ」へ、「精神」から「行動」へと科学的心理学の変遷や考え方を概観し、専門心理学の基礎を理解する。</p> <p>本講義では、人間が存在することによって生ずる日常生活での諸現象(人間の能動的な認識作用である認知・覚えることと忘れることのメカニズムを支配する記憶・問題解決との関連が深い思考などの精神現象や人間関係等)について、精神生理学や比較行動学などの隣接領域の観点も加え、こころと行動との関係を理解することを目指す。</p>	
学部共通科目	教養科目	生命の科学	<p>人間は生き物であり、人間を取り巻く森羅万象の多くもまた生き物である。生命科学の急速な発展により、生命活動の機構をより深く理解する事ができるようになった。同時に、「遺伝子組み換え食品」や「遺伝子治療」など20年前には存在すらしなかった言葉が広く用いられる様にもなった。</p> <p>本講義では、細胞が増殖し生命を維持するしくみを学習し、バイオテクノロジーの現状を知り、生き物としてのヒトの成り立ちを学ぶ。</p>	
学部共通科目	教養科目	変貌する社会と人間生活	<p>社会学の原理と方法的特徴の理解をもとに、実社会に出てからも役立つように、ジェンダー、労働、教育、政治、マス・メディア、インターネットなど現代社会の諸問題に対する社会学研究の到達点を理解する。特に、現実には起きているアクティブな社会問題に関して、テレビ番組、新聞、インターネット等から広く諸見解を紹介・比較し、学生の関心に即して社会的見地から検討を加え、学生自身が多様な情報を自分で判断できるだけの検証方法と知識の獲得を目指す。</p>	
学部共通科目	教養科目	身体とスポーツの文化論	<p>人間にとって「身体」とは何かということについて、生物の人間への進化の過程における「身体」、「身体である」ことと「身体を持つ」こと、身体が「育つ」ことと身体を「育てる」こと、身心の関係、文化としての身体、等々の論題を通して総合的に考察する。</p> <p>また、身体が運動するところに成立する「スポーツ」とは人間生活にとってどのような意味と価値を持つ文化なのかについて、歴史的・社会的視点、文化論的視点、教育学的視点等から総合的に考察する。これらの検討を通して、これからの社会を生きる人間の「身体」と「スポーツ」に関する教養を養うことを目指す。</p>	

学部共通科目	教養科目	文学と人間	文学作品を複数の観点から分析したり読み味わってみるにより、作品の新たな価値を見いだしたり、新たな選書の観点を獲得することを目的とする。またそのことによって、今までの自己の読み方を相対化し、読書のジャンルや味わい方を拡充することをねらいとする。 文学作品や関連資料を、古典作品については現代語訳を提供しつつ、じっくりと読み解き、個性的で魅力的な作中群像と彼等が関わった恋愛や事件や合戦に想いを馳せていくことを大切にしたい。	
学部共通科目	教養科目	経済学から眺める社会	経済学という「眼鏡」をかけた時に見える社会は、「裸眼」で見た社会とどのように異なっているのか？最近の日本と世界を見る視点に、経済学という視点を加えることによって、次世代を育てることを将来の進路として考えている学生の視野が広がるような内容の授業を行う。 具体的には、学部の趣旨を考慮に入れ、一見したところ「カネ」とはあまり関係がないように見える健康や教育といった問題に、社会的・経済的諸条件がどのように関係しているかを理解すること、さらには、データによって社会の姿を明らかにするという経済学の特徴を活かし、この授業を通じて統計リテラシーをも身につけることを目的とする。	
学部共通科目	総合科目	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	本学における建学の精神は、創始者である日高藤吉郎翁が着目した「夫レ身体健康ナラザレハ、心志剛強ナル能ハズ。心志剛強ナラサザレハ、事ニ堪ヘ業ヲ遂クルコト能ハス。而シテ身体ノ健康ヲ欲セハ、身体ヲ運動スルヨリ善キハ莫シ。(中略)体育ヲ盛ニシテ国民ノ強壯ヲ謀ルハ、蓋シ国家富強ヲ図ル大本ナリト。」(『有文会誌』14号、明治24(1891)年12月)という近代的な体育理論を基盤としている。 本講義では、翁の『體育富強之基』という標語を建学の精神を継承・発展させていくため、日体大の歴史を学ぶ。	
学部共通科目	総合科目	野外活動実習	本授業では、野外での自然体験と野外スポーツの実習を通じて、自然と人間・社会と人間・文化と人間という人を取り巻く環境を理解し、それぞれにふれあうことのできる資質と能力を身につけ、野外活動についての基礎的知識と技能を身につけることをねらいとする。 また、その中で、集団生活を通して仲間とのコミュニケーションを図り、連帯感と協調性を養うとともに、集団活動における責任と役割の重要性についても学習することを目的とする。	(複数教員担当)
学部共通科目	基軸科目	基礎ゼミナールⅠ	本授業では、豊かで有意義な大学生活を送る上で必要かつ不可欠な基礎的な力を身につけることを目的とする。 まず、学務、学生生活、図書館、情報機器、キャリアその他の学生生活に関わる諸部局・施設の使い方についてオリエンテーションするとともに、HRとしての担任教員と学生、学生間の交流を図る。 また、大学での学び方を身につけるため、「聴く力」「話す力」「読む力」「書く力」という4つの学習基礎力の耕しと充実を図るとともに、大学生として講義、実技などの授業、課外活動、衣食住などの生活を見直し、自律的に営むことのできる自己管理能力を身につけることを目的とする。	(クラス分け)

学部共通科目	基礎科目	基礎ゼミナールⅡ(アカデミックリテラシー)	<p>(概要) 大学で勉学生活を送る上で必要な基礎的な力を身につけることを目的とする。まず、文字をはじめとするさまざまな情報媒体を通して、学芸の世界や生活世界を読み取り、自分の意見を持ち、仲間とディスカッションし、測定・実験・調査なども試みる事を通して、これから大学で専門課程を学んでいくために必要な学びの方法・スキルを身につけることをめざす。</p> <p>1回目：(担当教員全て授業を行う) オリエンテーション。大学での学び方の特質。リテラシーとは何か。</p> <p>2回目～15回目(オムニバス方式/全14回)：2クラスを組み合わせ、前半7回と後半7回の授業を行い、途中で内容と担当教員を入れ替える。</p> <p>(33 関 芽/7回。15 奥泉(岩本) 香/7回) 新聞、専門誌、単行本、絵・写真・映像など読む・観る、要約する、報告する、仲間と意見を交流し討論する、その結果をまとめてレポートする、等の学習とトレーニングを行う。</p> <p>(23 伊藤 雅充/7回。12 島田 功/7回) 身の回りの事象・事象について、簡単な測定・実験・調査等を実施し、その結果を集計し、グラフ化する。また、そのデータを使って統計的な手法(平均値、標準偏差など)を用いて分析するトレーニングを行う。</p>	(クラス分け) (オムニバス) 2人で1クラスを担当しオムニバスで授業を行う。
学部共通科目	基礎科目	児童スポーツ教育演習	<p>(概要) 乳幼児期から小学校期までの児童の体づくりと運動遊び、園や学校での体育と健康教育・指導、スポーツの指導等について勉学・研究していく際に必要とされる、①先行研究のレビューと課題設定の仕方、②課題を解決するための実験・検査・測定、調査・実践等の方法の学習と試行的実施、③その結果を統計処理・整理し、事実をもとに議論・考察し論理的にまとめる力を養うことが授業のねらいである。文献購読、演習、実験等を総合した演習形式で授業を行う。</p> <p>児童スポーツ教育コースの受講者は3クラスに分け、村本和世、伊藤雅充、須永美歌子が各クラスを30回ずつ担当し上記の概要に従って授業を行う。</p> <p>幼児教育保育コースの受講者は1クラスにまとめ、オムニバスで担当する。(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(13 時本 久美子/10回) 子どもの運動遊び・体操指導等学生自らが興味を持った分野について文献レビューを行い、明らかになったことや疑問点をまとめ、小グループで発表・ディスカッションを行う。</p> <p>(16 岡本 美和子/10回) 発表・ディスカッションを通して明らかになった課題について解決するための方策を考え、その方法の学習と試行的実施を行う。</p> <p>(25 齊藤 崇/10回) その結果を統計的に処理する、または内容分析するなどデータを整理し、その結果を考察し文章にまとめていく作業を行う。</p>	(クラス分け) (オムニバス)
学部共通科目	基礎科目	児童スポーツ教育研究Ⅰ	<p>本授業は、2年次の児童スポーツ教育演習で学習したことを踏まえて、3、4年次の自分の児童スポーツ教育研究の基軸をすえる位置付けを持つ。</p> <p>受講生は、本学部の専任教員の多様な研究教育分野の中から自分が特に研究したいというテーマを選んでゼミナールに所属し、指導教員の下で研究テーマと研究方法について集団的に交流し学び合いながら、4年次の卒業研究に向けて、各自の問題意識を研ぎ澄まし、研究課題を設定できるようにすることが、この授業の目的である。授業は、演習形式で行う。</p>	(クラス分け)
学部共通科目	基礎科目	児童スポーツ教育研究Ⅱ	<p>本授業では、児童スポーツ教育研究Ⅰを通して各自があたためてきた研究テーマをさらに発展させて、先行研究を踏まえて研究課題の焦点を絞って卒業研究のテーマと研究方法を確立し、そのテーマと方法を仲間と批判的に交流し合いつつ、具体的な研究方法を設定して、1年間かけて指導教員の下で卒業研究に取り組む。</p> <p>具体的には、演習形式のゼミナールの他、調査・実験・実践研究などに関しては時間と場所を工夫して随時取り組む。</p>	(クラス分け)

学科共通科目	基幹科目	<p>児童スポーツ教育論</p>	<p>(概要) 本講義は、児童スポーツ教育学への入門として位置づく。児童スポーツ教育とは、乳幼児期まで遡れば、「体育」と書いて「からだ育て」と読むほどの広さを持つ子育ての取り組みの全体を意味し、そこには、子どもに元々備わっている「育とうとする力」を伸び伸びと発現させるための環境整備から、それを意識的に育てるための大人の働きかけまでを含む。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(24 近藤 智靖／7回) 幼児期から小学校前期にかけての、児童の体づくりの営みや、児童がその運動欲求に基づいて行う運動遊びについて、児童の活動をどう組織し指導者がどう働きかけるべきかについて検討する。</p> <p>(1 高橋 健夫／8回) 小学校期の児童について、その発達段階に応じた体育の授業と体育的行事、学校や地域での運動遊びやスポーツ活動をどう指導すべきかについて、幅広い視野で基礎的な検討を行う。</p>	(オムニバス)
学科共通科目	基幹科目	<p>児童健康教育論</p>	<p>本講義では、児童が健康でアクティブな生活を安全に営むために必要な基本的事項について、現代の疾病構造を踏まえた上で考察していく。</p> <p>そのために、まず、児童の心身の発達段階とライフサイクルを見据えた健康教育のあり方について考えていく。そして、これからの社会を形成していく子どもたちに健康で安全な生活習慣を形作らせ、将来に向かって健康な生活設計を指導できるようなるための基礎的な知識を身につけることを目標として学習を進める。</p>	
学科共通科目	基幹科目	<p>発育発達論</p>	<p>本授業の目的は、加齢に伴う身体の変化(発育発達)を理解することである。講義では、身体の変化を形態面と機能面の2つに分け、具体的なデータを示しながら展開するものである。特に、個体の発生から、機能発達の経過、運動能力の特徴とトレーニングや、障がいのある人の運動能力の特徴とトレーニングについて、発育段階からみた身体発達の特徴を踏まえながら系統的に学習する。それによって、各ライフステージにおける運動が身体の形態と機能の発達や運動スキルの習得に及ぼす影響について理解する。</p>	
学科共通科目	基幹科目	<p>児童の身体の仕組み</p>	<p>本講義では、胎児期～学童期にかけての児童の身体の構造と機能について、発達段階をおって概説する。他方、スポーツは身体運動を通して健康の保持・増進を助長することも目的としていることから、身体運動によって生体は反応し、運動に適した形態と機能を獲得してくる。そこで、これらの両側面の関わり合いを念頭に置きながら児童の身体の仕組みについて系統的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(16 岡本 美和子／3回) 胎児の成長、乳幼児の発育、神経学的発達について学習指導用教材を活用しながら授業を展開する。</p> <p>(52 小林 正利／12回) 児童の身体の構造を、骨格筋系、関節系、中枢神経系、消化器系、循環器系等各器官について視覚的教材を使用しながら学習し、児童の健康の保持増進に関する知識を含めて習得する。</p>	(オムニバス)

<p>学科共通科目</p>	<p>基幹科目</p>	<p>児童スポーツ指導論</p>	<p>(概要) 本講義では、児童の心身の発達特性を踏まえて、体づくりや運動遊び・スポーツの指導の目的・内容・方法について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 久保 健/7回) まず、幼稚園及び小学校段階の子どもたちを対象とする、学校・園、地域における運動遊びやスポーツの指導がどのように行われているか、実態を明らかにする。次に、そうした指導のあり方がこの各時期の児童の身体と心の発達に相応しいものであるかどうか批判的に検討する。</p> <p>(24 近藤 智靖/8回) この時期の児童の発達段階を、①幼児期、②小学校1年～4年までの時期、③小学校5、6年の時期に分けて、それぞれの時期の児童の心身の発達の様相をふまえ、発達を促すことのできるような運動遊びやスポーツの指導の目的・内容・方法のあり方について、優れた指導実践例をひもときながら検討する。</p>	<p>(オムニバス)</p>
<p>学科共通科目</p>	<p>基幹科目</p>	<p>児童の体づくりと動きづくり</p>	<p>(概要) 幼児期、児童期の子どもはその活発な運動生活の中で多様な動き方を並列的に獲得していく。この時期に獲得した動き方は、子どもが生涯にわたって身につける動き方の基礎となる。</p> <p>本演習では、子どもの運動発達をふまえた上で、幼児期、児童期における体づくりと動きづくり、運動遊びやスポーツなどの指導に必要な基礎的な理論と指導法を習得することをめざす。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28 須永 美歌子/5回) 体力の測定法およびその評価法について学習し、幼児期、児童期における体力・基本的動作スキルの発達を促すための運動方法について理解し、成長期の子どもに対する運動処方ができる能力を身につける。</p> <p>(5 阿部 茂明/5回) 子どもたちが体づくりや動きづくりの学習を効果的に進めていくための教材作りや指導方法の実際等のうち、特に「体づくり運動(体操)」について実践的に検討する。</p> <p>(11 久保 健/5回) 体づくりや動きづくりの効果を念頭において構成したさまざまな運動遊びについて、実践例も紹介しながら検討する。</p>	<p>(オムニバス)</p>
<p>学科共通科目</p>	<p>基幹科目</p>	<p>スポーツ生理学</p>	<p>運動によって身体には大きなストレスがかかり、内部環境に様々な変化が生じる。このような生体への影響を知ることは運動効果を高めたり、事故を防ぐために役立つ。</p> <p>本講義では、身体運動に対する身体諸器官の急性および慢性の生理学的応答・適応のメカニズムを理解することを目的とする。さらに筋・神経・呼吸循環機能の身体運動における役割を基質・エネルギー代謝などと関連付けながら生理学的に理解し、様々な対象者や環境での運動指導に生かすことのできる知識を深め、科学的かつ安全な運動指導ができる能力を養うことを目的とする。</p>	
<p>学科共通科目</p>	<p>基幹科目</p>	<p>スポーツバイオメカニクス</p>	<p>日常生活からスポーツ活動において見られる人の動きは、身体内部で発揮される力、骨格などの身体構造、地球上での力学的性質(重力、摩擦力、空気抵抗など)、神経制御との関連から成り立っている。</p> <p>本講義では、人の動きを客観的にとらえるために必要な科学用語と概念を知り、基本的な科学法則を理解する。そして、自分がこれまで行ってきたスポーツだけでなく、種々の動作の共通点、相違点をスポーツバイオメカニクスの視点から客観的にとらえることができるようにする。</p>	

学科共通科目	基幹科目	食育論	<p>児童にとって、「食」は、生命と健康の維持、身体の発達のための第一の源泉であるとともに、物事の好き嫌いの形成や食事の際の他者とのコミュニケーション、食材や食器や調理といった食文化等、児童の人格形成にとって総合的な意義を持っている。</p> <p>本講義では、運動習慣を含めた適切な生活習慣の形成や、児童の心身の健やかで全面的な発達を促す上での食育の意義や、子どもの食の現状と課題等について学び、家庭や学校・園等で適切に食育（給食を含む）を実践するための基礎的な理論や具体的な方法について学習する。</p>
学科共通科目	基幹科目	ライフステージ栄養学	<p>あらゆる世代の国民一人一人の健康維持・増進のため、成長、発達、加齢や老化に伴う身体的、生理的特徴とそのライフステージに応じた栄養の意義について学ぶ。そして、新生児期、乳・幼児期、学童期、青年期、成人期、中・高齢期といった人の一生の各ライフステージにおける栄養補給のあり方について理解する。さらに、運動やストレス、環境条件の変化などをふまえた栄養管理についても学び、ライフステージやライフスタイルに応じた栄養管理、食育のあり方について学習する。</p>
学科共通科目	スポーツ実技科目	体づくり運動(体操)	<p>体操（学校教育での運動領域名は「体づくり運動」）は健康の維持増進を目的とした運動領域であり、スポーツの基盤となる基本運動として重要な役割を果たすと同時に、体を動かす楽しさそれ自体を求める目的でも人々の間で行われている。</p> <p>本授業では、体操の基礎的理論をはじめ、徒手体操・組体操・組立体操・手具体操などの様々な種類を経験しつつ、体育・スポーツ指導者に必要とされる実技能力を耕し、体操についての基礎的な知識と指導法を修得することをねらいとする。</p>
学科共通科目	スポーツ実技科目	ダンス	<p>本授業では、児童スポーツの指導者を目指す者として、まず自分がダンスを踊る喜びを体得するとともに、指導者として児童にダンスを指導するための基礎的な技術と知識を獲得することをめざす。そのため、まずダンスに必要な基本ステップや技術、理論を習得していく。</p> <p>特に、保育所や幼稚園の「表現リズム遊び」や小学校の「模倣・表現の遊び」や「表現運動」を取り上げ、ウォーミングアップから表現に繋げて実践する。また、フォークダンスも含めて仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。</p>
学科共通科目	スポーツ実技科目	器械運動	<p>器械運動は、きわめて非日常的な性格を持つ運動種目であり、「できる・できない」や「好き・嫌い」の差が激しい。そこで、本授業では、「マット運動」「とび箱運動」「鉄棒運動」を取り上げ、まずは器械運動が得意な者も苦手意識を持つ者も誰もが楽しめることを目指す。</p> <p>そして次に、「技が円滑にできる」ことをねらいとして、自己の努力や工夫によって器械器具の安全を確かめながら、洗練された運動が安定してできる段階まで練習するとともに、指導法や練習法、補助法を身につけることを目指す。</p>
学科共通科目	スポーツ実技科目	陸上競技	<p>陸上競技は、走・跳・投に大きく分けられており、それぞれの種目の中にも専門性が濃く、技術指導やコーチングのあり方も多岐にわたっている。ただし、陸上競技に対する人々の受け止め方の中には、「単調でおもしろみが少ない」「走ったり跳んだりする能力は生まれつき決まっている」「つらく苦しい」などの理由で、陸上競技は嫌いだとするものも少なくない。</p> <p>そこで、本授業では、それぞれの種目や各年代の特性に応じた陸上競技の楽しさを体感できる工夫をこらすとともに、特に走・跳の各種目の技術とルール、練習の仕方やトレーニングの方法、それに基づく練習・トレーニング計画の作成方法等、指導者としての資質の獲得を目指した授業を行う。</p>
学科共通科目	スポーツ実技科目	水泳	<p>主として幼児・児童の水泳教育で重視される種目としてクロールと平泳ぎの基本技術習得を目的とする。技術向上のためではなく、正しいフォームを身につけ、長い時間ゆっくりと泳ぐ事ができるようになることを重視する。また、自身の基本技術習得だけでなく、幼児・児童の水泳指導を行う上で必要な安全の確認や水慣れの手法、あるいは、クロールおよび平泳ぎ（キック、ストローク、呼吸法、コンビネーション）などの基本的技術指導方法も理解する。</p>

学科共通科目	スポーツ実技科目	ボールゲーム	<p>(概要) ボールゲームの特性と分類を理解するとともに、ネット型ボールゲームであるバドミントンとゴール型ボールゲームであるバスケットボールを取り上げ、それらのボールゲームをプレイすると共に、運営や指導を行う際に必要となる基本的な技術・戦術やルール、審判法、コートや用具等について実践的・理論的に学習を行う。</p> <p>具体的な授業担当は以下の通りである。 1回目：オリエンテーションとグループ分け、ボールゲームの特質と分類についての解説。(古川、木下の両名で担当)</p> <p>2～15回目：(オムニバス方式/全14回) 受講生は2グループに分かれ、両グループが次の2つの内容を7回ずつ交代で学習する。</p> <p>(32 木下 佳子/7回) バスケットボールの技術とルール、理論と指導法を修得し、自分たちで審判し合ってゲームを楽しめるようになることを目指す。</p> <p>(20 古川 暁也/7回)、バドミントンの技術とルール、理論と指導法を修得し、自分たちで審判し合ってゲームを楽しめるようになることを目指す。</p>	(オムニバス)
学科共通科目	スポーツ実技科目	柔道	<p>柔道においては「精力善用」「自他共栄」を基本理念とし、競技における単なる勝利至上主義ではなく、身体と精神の鍛錬と人間性の教育を目的としている。本授業では、このような柔道の特性を理解し、基礎技術として、受け身を修得することにより転倒時の受傷を軽減させる方法を学ぶ。</p> <p>また、体さばきや基本となる投げ技を修得することにより、柔道の楽しさを味わうとともに四肢の筋力をバランスよく発達させる運動を実践的に学ぶ。</p> <p>なお、本授業は学習指導要領改訂で「武道」が中学校1・2年次で男女必修となったことも踏まえて男女共修で行う。</p>	
学科共通科目	スポーツ実技科目	エアロビックエクササイズ	<p>エアロビクスエクササイズの実践を通して、有酸素運動の特性である持久的運動を経験し、運動の質を感じられる身体感覚を育み、基礎技術を習得する。</p> <p>また、多種多様な音楽・機材等を活用しながら、効果的で楽しい動きを通じて、体を動かす楽しさや表現する喜びを感じるとともに、体力づくりや健康維持増進を目指す。さらに、これらの実践を通して、エアロビックエクササイズのプログラムの構成や指導方法を学び、幅広く理解できるようになることを目指す。そのため、エアロビクスエクササイズの理論についても学習する。</p>	
学科共通科目	スポーツ実技科目	レクリエーション	<p>現代社会において、余暇生活のあり方やレクリエーションプログラムの有る無しは、その人の生活の質を決定づける重要な要素となっている。</p> <p>本授業では、まず現代生活における余暇(レジャー)の本質やレクリエーションの意義や意味についての基礎的理解を深めることをねらいとして授業を行う。</p> <p>また、レクリエーション事業の企画や計画づくり、具体的なレクリエーション諸種目の実施と評価の方法、安全管理などについて学ぶ。また特に、児童にとってのレクリエーションの意義とあり方について理解し、実際に指導できるための知識と方法を学ぶ。</p>	
学科共通科目	自由科目	アダプテッドスポーツ論	<p>本講義では、障がいのある人の競技スポーツからレクリエーションスポーツまで、アダプテッドスポーツの現状と具体的な取り組みについて理解するとともに、既存の方法ではスポーツに親しむことが困難な人々を対象にした運動の方法やルールの工夫などについても検討を加える。</p> <p>将来、様々な困難や問題状況を抱えた子どもたちに対して、スポーツを楽しむことができるための支援・指導に携わっていくのに必要な知識を身につけることを目的とする。</p>	
学科共通科目	自由科目	アダプテッドスポーツ実技	<p>本授業では、障がいのある人のスポーツについて、パラリンピックなどで実施されている車椅子バスケットボールや、重度の障がいのある人を対象にしたポッチャ等について、その基礎的な技能とルールを体験的に学習する。そして、そうしたスポーツのやり方やルールの工夫などについて実践的に学習しながら、障がいの種類や程度、運動能力の実態に応じた指導・支援に携わっていくために必要な基礎知識と技術、実践的能力を身につける。</p>	

<p>学科共通科目</p>	<p>自由科目</p>	<p>スポーツ現場実務論</p>	<p>本講義では、スポーツ現場実習への事前指導も兼ねて、さまざまなスポーツ現場の仕事の実際と実習の意義及び目的、実習に行く上での心構えやマナーなどについて講義する。なお、スポーツ現場の実際については外部講師のレクチャーも受ける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(30 亀山 有希／5回) スポーツ基本法に基づく国のスポーツ基本計画やさまざまなスポーツ現場の実態について、また、さまざまなスポーツ現場の種類と、それを利用している人々やそこで働いている人々の仕事の内容等について。</p> <p>(28 須永 美歌子／5回) さまざまなスポーツ現場におけるインストラクターやマシントレーニングの補助等の仕事の内容と実習生の服務について。</p> <p>(32 木下 佳子／5回) 実習に行った際の社会人としての基本的な態度や行動の仕方、マナーなど、また、スポーツ現場の利用者への接し方等について。</p>	<p>(オムニバス)</p>
<p>学科共通科目</p>	<p>自由科目</p>	<p>スポーツ現場実習</p>	<p>スポーツ現場実習は、スポーツ関連諸資格の取得とも関わって、公共、民間、非営利組織、スポーツ産業やボランティア組織等のスポーツ現場で、指導や支援の実習を行うものである。このスポーツ現場の中には、児童から青年、成人、高齢者、心身に障がいのある人など様々な現場があり、受講生は、自身のキャリアプランの形成に資するよう、希望する現場を選択して実習に参加する。</p>	
<p>コース専門科目</p>	<p>基幹科目</p>	<p>スポーツの歴史と本質</p>	<p>今日の高度に発達した産業社会は度重なる技術革新によって産業の効率化を著しく高めてきた。これによって労働時間が一層短縮されるとともに、余暇時間を増大させてきた。またサービス産業の発達と繁栄によって生活の楽しさや便利さが求められてきている。このような社会の変化を背景にしながら、遊びやスポーツも「消費」生活の対象となり、かつてない大衆娯楽の時代を迎えつつある。人々は自己啓発や自己実現に向けて遊びやスポーツに期待を寄せるようになった。</p> <p>しかし、ゴルフ場建設やスキー滑降コースの建設が、自然保護の問題、農薬による人体への影響から論議されるようにもなり、“スポーツの時代”を迎えたと喜んでばかりもいられない。</p> <p>そこで、本講義では主としてこのような問題を抱えるようになった歴史的背景を探ることを通して、現代人にとってのスポーツの在り方を検討する。</p>	
<p>コース専門科目</p>	<p>基幹科目</p>	<p>児童スポーツトレーニング学</p>	<p>中高年時に発症しやすいメタボリックシンドロームや高齢者での寝たきりを予防するためには、幼児期・児童期からの基礎体力づくりがきわめて重要である。しかしながら、子どもの発育発達には個人差があり、それに伴い運動刺激に対する反応も多様である。</p> <p>本講義では、年齢や発育状態に合わせた運動負荷（強度、時間、頻度）の与え方は健やかな心身の成長に必要な不可欠である。本講義では、幼児期から児童期を対象とした適切なトレーニング方法を学び、個々の発育発達に応じたトレーニングプログラムの作成ができる知識と能力を習得することを目的とする。</p>	

コース専門科目	基幹科目	発達障害と特別支援教育	<p>(概要) 特別支援教育は、一人一人学び方の違う子どもたちのニーズに合わせて適切な指導方法の選択や具体的な指導内容による実践が必要となる。それによって苦手意識の克服や取り組み姿勢の改善だけでなく、上手にできないことや必要以上に注意をされることで生じるパニックや自己否定感等の二次的な問題を少しでも予防、軽減することができる。</p> <p>本講義では、対応に工夫が必要となる発達障害に対する理解を深め保育・教育やスポーツの現場で具体的ななかかわりができるようなアイデアを考えることができ、さらにそのアイデアの実践ができる技術を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(44 齋藤 雅英/5回) 障がいによってその特徴や関わり方の留意点は異なる。そのため、各障がいの特徴とその対応について学ぶ。</p> <p>(22 宇部(金子) 弘子/10回) 軽度発達障害の特徴について学び、学校現場で必要とされる実践的対応方法を身につける。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	基幹科目	児童スポーツコーチング学	<p>発育発達期にある子どものスポーツは、精神的にも身体的にも、また社会的にも大人のスポーツとは性質を異にしている。したがって、子どもを対象としたスポーツコーチングでは大人の場合とは違ったアプローチが必要となる。</p> <p>本講義では特にアスリート中心のコーチングおよび長期的アスリート育成概念を基盤とし、ハイパフォーマンスコーチングから参加型スポーツコーチングまで、子どものスポーツに関わるコーチの役割やコーチングスキルについて様々な視点から考えていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 伊藤 雅充/8回) スポーツコーチングの基礎理論と原則</p> <p>(21 別府 健至/7回) スポーツコーチングの実践理論と具体的方法</p>	(オムニバス)
コース専門科目	基幹科目	スポーツ社会学	<p>近代スポーツはこれまで政治・経済、社会情勢に伴い変化してきた。近代スポーツの歴史を読み解いていくと、現在でも問題となっている、スポーツと暴力、スポーツと政治、スポーツと経済・コマーシャルイズム、スポーツと薬物などの原因を見出すことができる。また、そこからそれぞれの現状と今後の課題を検討することができる。スポーツは決して華やかな表舞台だけではなく、その裏にはさまざまな問題を抱えてここまで発展してきた。</p> <p>ここでは、21世紀のスポーツの問題点について検討し、現代社会におけるスポーツの社会的機能・役割等について考えていくための基礎的な物の見方、考え方を育てることをねらいとする。</p>	
コース専門科目	基幹科目	スポーツ心理学	<p>スポーツ心理学では、スポーツという人間がつくりだしてきた文化と「より上手く、より健康に」といった願いをもって行為する人間との心理的な相互作用を明らかにすることを目標とする。</p> <p>具体的な内容としては、スポーツの心理的効用・子どものからだとスポーツとの関連・練習と指導の心理・スポーツとパーソナリティの形成・あがりとメンタルトレーニングなどであり、これらの知識を基に、授業では競技力の向上や健康に関わる心理的な諸問題について論じ、各自の体験を理論的に考える力を身につけさせる。</p>	
コース専門科目	基幹科目	スポーツ経営管理学	<p>スポーツ経営管理学とは、人間にとっての体育・スポーツの価値を最大化して、効率的・継続的にその価値を享受させるための職的活動の原理原則を探求する学問である。もっとも、その各論は多岐にわたるが、本講義では、事業論、組織論、経営管理論を主な内容とする。</p> <p>また、学校教育としての体育・スポーツ活動と地域社会におけるスポーツ活動の経営を中心にしながら、体育・スポーツ経営管理の考え方、進め方について学んでいく。</p>	

コース専門科目	基幹科目	身体と運動の測定評価学	<p>本講義は、われわれの身体を体力・運動能力の面などから正しく測定する態度と心構え、そしてその結果を如何に正しく評価するかを学習することを主たる目的とする。体力・運動能力などのテスト（スポーツテスト・新体力テストなど）を幼児・児童の教育でどのように実施していくか、そしてその結果を互いにどのように活用していくかにより、体力測定の実施の意義や目的について学習するものである。</p> <p>また、これらを活用するためには自ずと統計処理にも触れることになるので数値の解釈の仕方が学習の到達目標の一つともなる。</p>
コース専門科目	基幹科目	スポーツ栄養学	<p>本講義では、スポーツマンの心身の健康を保つために求められる栄養の状態や必要度について学ぶ。栄養の意義を理解し、健康の保持増進または体脂肪のコントロールなど、生活上の目的を達成するための基礎として栄養素について学習する。</p> <p>そしてこれをスポーツ活動に応用し、スポーツパフォーマンスの向上やスポーツ障害の防止、コンディショニング調整など、さまざまなスポーツ場面での目的を達成するための栄養の意義と具体的な栄養摂取の方法を通じて、必要な食品と食事についても学習し、栄養に関する理論的知識と実践力を身につける。</p>
コース専門科目	基幹科目	衛生学・公衆衛生学	<p>衛生学・公衆衛生学の意図するところは、人々の疾病を予防し、健康の維持・増進をはかり、延命をもはかる科学である。本講義では、まず「健康とは何か」「衛生とは何か」を考え、また、疾病や健康障害の要因が如何なる条件下で生体に働きかけるのか、またそれらが生じやすい条件にどう対応するのか等について学習し、健康への理解を深める。</p> <p>具体的には、環境衛生、食品衛生、母子保健・小児保健、労働衛生等の項目を立てて講義していく。</p>
コース専門科目	基幹科目	児童医学	<p>本講義では、将来、児童の運動・スポーツ指導の専門家として働くうえで必要な医学的知識を身につけることを目的として、ヒトの成長・発達、心身機能と身体構造の概要、健康の捉え方、そして疾病と障害の概要について学習する。</p> <p>本講義の受講生は、直接に医学的介助を行うわけではないが、成長発達段階にある児童の心身の健康を保障する専門家として、医学の基礎的知識を持つことは不可欠であり、質の高い専門家を目指してほしいと考える。</p>
コース専門科目	展開科目	学校保健(小児保健・精神保健を含む)	<p>学校保健は、子どもの健康を守り育て、健康に発達する権利を保障する役割を担っている。本講義では、幼児期および学童期における児童の発達課題を明確にし、近年におけるからだやこころの健康問題の実態を広く把握する。</p> <p>また、小児保健に関しての基本的な学習や、近年様々な問題を投げかけている精神発達に関わる健康問題についても講義する。それらを通して、将来、子どもの教育を担うものとして、子どもの自律的健康管理を支援し教育できる資質および能力を育成する。</p>
コース専門科目	展開科目	ヘルスプロモーション	<p>ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康をコントロールし改善できるようにするプロセスである。心身ともに健康に暮らしていくことは多くの人の望みであり、学校においては、これから伸びゆく子どもたちに社会での健康の自律に必要な知識や技術を習得させるという視点をもって指導を行う。</p> <p>本講義では、自らの健康をコントロールし、改善するための具体的な手段や方法について、健康医学的知見から得られた様々な処方や療法の実際について解説する。</p>

コース専門科目	展開科目	生涯スポーツ論	生涯にわたってスポーツに参加することは、スポーツ基本法にも挙げられているように一人ひとりの生活を豊かにする上で欠かすことのできないものである。またスポーツ参加は、身体的にも精神的にも、また社会的にも意義あるものであり、まさに世界共通の文化でもある。 そこで本講義では、広く国民が生涯にわたってスポーツに参加することの意味や意義を現代社会の現状と課題から理解することをねらいとして、生涯スポーツの現状と課題、法制度と政策、スポーツ愛好者の活動などについて検討することを通して、人々が生涯にわたってスポーツを享受することができるための具体的方策について、自分の考えを持てるようになることをめざす。
コース専門科目	展開科目	野外活動論	本講義は、現代社会において人々が自然とのふれあいを求め、そこで何かの活動をしようとする時に必要になってくる野外での活動の楽しみ方についての基本的考え方を学習することをねらいとする。野外活動は自然環境を理解し有効に利用する手段であり、自然と人との関わりについて直接的体験を通じて学習する場でもある。したがって、野外活動における基礎的な知識および技術について学習し、指導者としての資質を向上させることを目的とする。
コース専門科目	展開科目	トレーニング実践演習	近年、競技スポーツにおいては、技術の高度化に伴う体力づくりが求められ、他方、中高齢者には、健康づくりのための運動方法や体力づくりが求められている。本講義では、ストレングス&コンディショニングをベースにトレーニングプログラムが作成でき、学校・園における体育活動および地域スポーツの現場などでトレーニングプログラムを作成し、適格な指導のできる知識と能力を身につけることを目的とする。 具体的には、①基本的なトレーニング方法を元にレジスタンス運動の理論と実践、②体力、コンディショニングづくりのプログラム作成とレジスタンス運動種目の実践について、前半は理論を中心に、後半は実践を中心に演習を行う。
コース専門科目	展開科目	救急処置実習(テーピングを含む)	本講義では、教師やスポーツ指導者に必要とされるスポーツ外傷・障害の発生原因と救急処置法全般について学ぶとともに、特にその予防や保護に不可欠なテーピングについて学ぶ。スポーツによって起こりやすい外傷・障害の発生原因・症状等についての知識を得たうえで、基礎技術からその応用までのあらゆる状況に対応できるテーピング理論の知識を実践も加えて習得する。 講義形式でテーピングに関する理論について学習するとともに、実際にテーピングを行う方法について実習を通して学ぶ。
コース専門科目	教育の基礎	教育原理	本講義では、これまで経験してきた学校生活及び日常生活を振り返り、「教育とは何か」という根本的な問いかけを常にしながら生活する態度を身に付ける。こうした活動を通じて、多くの人が「当たり前」と考えている「教育」にまつわるイメージを一旦崩し、新たに教育という営みについて考え直す機会となることを目指す。 また、教育という活動の意義や目的、そして我が国の学校教育の歴史の変遷など一連の教育的な営みについて歴史的考察を加え、体系的に理解するとともに、学校における教育活動を支える指導原理と今日的教育課題との関連について理解する。
コース専門科目	教育の基礎	保育原理	保育の意義や幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、保育所保育指針における保育の基本について学び、明確な認識を深める。さらには、世界における保育の思想、歴史的変遷、我が国における保育の思想、歴史的変遷を学ぶことで、保育思想のつながりや流れについて学習し、現代の幼稚園教育や保育の基本にどのように結び付いているのかについて理解を深める。 その際に、幼児観、発達観、保育観についても授業の中で触れ、それらが、保育を行う上で、どのように影響を与えるのかについても理解する。また、現代における幼稚園教育や保育を取り巻く現状やその課題について学ぶとともに、我が国における幼保一体化の変遷や制度などについても学び、考察を深め理解する。

コース専門科目	教育の基礎	教育の方法と技術(メディア教育を含む)	<p>(概要) 本講義では、教育の方法と技術について概説するとともに、特に言語的・視覚的リテラシーやメディア教育についても検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 奥泉(岩本) 香/8回) これまでに開発されてきた代表的な教育方法や教育技術を取り上げ、それらが学習者の思考や理解のあり方にどのような効果を意図し、どういった面を乗り越えるべく開発されたのかを考察する。また、発問や指示の技術にも触れ、学習者の意識や思考を焦点化させるための具体的提案も紹介・例示する。さらに、効果的なプレゼンテーションの方法と技術も学ぶ。</p> <p>(4 岩佐 克彦/7回) 今日の社会と学校教育では、さまざまなメディアの積極的な活用が求められるため、近年の学校教育において必須とされているインターネットを含むメディアの活用の際に必要なメディアリテラシーについても、学習者の環境の変化をも含めて講義する。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	教育の基礎	教育の制度と経営	<p>山積する我が国の公立学校の諸問題を、公立学校制度の理念と構造の把握を通じて検討する。また、公立学校に携わる様々な人々(国、教師、保護者、地域住民、子ども等)の相互作用によって引き起こされる、教育活動の複雑で複合的な営みを、学校経営の理念と現状を把握することで理解する。学校教育の場で児童を教育することは、極めて高度な技能と知識を必要とする専門職の領域だが、民主主義社会における学校教育は、教育を職業とする者の意思のみによって行われるべきではなく、一般市民の意志を反映させたものでなければならない。本講義では、学校集団として保護者や地域との望ましい関係を築くことの大切さを理解することを目的とする。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	教師論	<p>教育の成否は教える教師次第であり、教師の人間性と専門性により教育効果は大きく左右される。そうした教師の営みを、我が国の教職観の変遷や教員免許制度の理念、および関係する教育法規等についての理解を深めながら、教師の果たすべき役割と、教師に求められる資質能力、専門性について学ぶ。</p> <p>また、近年の社会的変化に伴う児童の実態を踏まえ、これからの教師の望ましい在り方について考え、目指す教師像を明らかにする。これと並行して、現在の教師の職務と多忙感の原因を理解し、教師という職業を目指す上で多くの人が抱いている理想と現実のギャップを埋め合わせる作業も行う。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	発達心理学	<p>本講義では、発達を援助する立場になることを最終的な目標とし、心理学の知識を前提にしながら、人間発達の各時期に見られる個人的・社会的な問題を描き出すことを目的に、生涯発達の視点から授業を進めていく。特に思春期・青年期に至るまでの子どもたちの発達を中心に視聴覚教材(DVD、ビデオ)を活用しながら講義を進めていき、年齢による発達段階だけではなく、ひとりひとりの発達に応じて見通しをもって関わる力を身につける。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	人権教育	<p>本講義では、人間の尊厳の確立を目指し、人権擁護の知的理解や人権感覚、人権尊重の理念の認識を育むことを目標とする。</p> <p>人権教育が、同和教育を進める過程で教育本来の在り方が改めて考え直され、教育の根本理念を豊かにする経緯から生まれたことを踏まえ、人権が法的に守られている認識を基調とし、学校現場における様々な差別と不平等(同和問題、人種差別、様々な暴力、虐待、いじめ、不登校、ジェンダー、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、思想信条の自由の侵害など)の問題とといった課題を学生と共に考えていく。</p>	

コース専門科目	教育の基礎	特別活動の指導法	<p>小学校における特別活動の意義や目標を理解し、各学校の生徒の実態に即した学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ活動・部活動の計画・運営・反省および指導方法について学ぶ。小学校における特別活動の意義や在り方、実践事例などについて講義を中心に予習、復習を重視しながら授業を展開する。</p> <p>また、事例に対する課題学習や指導計画の作成、発表、模擬授業などを通して、実践的な指導の方法について学ばせる。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	教育心理学	<p>教育心理学は、教育に関する事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるために必要な心理学的知見と技術を提供しようとする学問である。教育現場では、教育の担い手である教師の関わりの影響や効果と教育の受け手である児童の特性との関連について考えていくことが大切である。</p> <p>本講義では、教育心理学にかかわる「発達・学習・人格・測定評価」などの基本的知識の獲得をめざし、教育心理学全般を概観しながら、特に学校教育の現場における「こころの問題」について学習していく。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	教育課程論	<p>教育課程の意義及び意味と内容、編成の基準等について、その法的な側面から理解するとともに、歴史的な流れを見据えながら理解を深めていく。</p> <p>具体的には、①進歩主義者と本質主義者の論争などを通じて教育課程の理念、②学習指導要領の変遷とその時代背景を概観することで今次学習指導要領改訂の特徴、③学校文化と潜在的カリキュラム、④習熟度別学習などの学力問題をはじめとした教育課程をめぐる昨今の動向、⑤特色ある学校作りに代表されるような教育課程編成の具体的事例などを理解することを目的とする。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	道徳教育指導論	<p>価値が多元化する現代における道徳教育においては、価値の形成そのものよりも、価値の形成に至るまでの過程を重視した指導が求められている。本講義では、現代社会における相反する価値の対立をめぐる論争を題材にしつつ、実践的な道徳教育の指導方法について学ぶことを主な目的とする。また、我が国の道徳教育の歴史（修身、社会科の誕生、道徳の時間の特設、教育基本法の改正等）を通じて、道徳教育指導法の変遷を理解し、現代社会における道徳教育のあり方について考えていきたい。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	教育相談(カウンセリングを含む)	<p>(概要) 教育相談は児童や保護者への支援・専門機関との連携という直接的な関わりだけではなく、教員の研修や年間計画などの企画運営、学校内の教育相談の組織や体制づくりも担っている。</p> <p>特に、小学校では学級担任の役割が大きく、その影響は独特である。ここでは、カウンセリングにおける傾聴の技術だけではなく、予防的・開発的な機能をバランスよく発揮していくための具体的な方法を身につけていくことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(44 齋藤 雅英/5回) 教育相談の意義と体制、学校で生じる具体的な問題や教師と児童生徒の関係性について学ぶ。</p> <p>(22 宇部(金子) 弘子/10回) 対応に際して必要なカウンセリングの技術や問題の背景について考える力を身につける。</p>	(オムニバス)

コース専門科目	教育の基礎	幼児理解	<p>幼稚園教育要領を踏まえて、幼稚園教諭として必要な幼児理解に関する諸理論について学び、その方法や具体的な方策について実践事例などを通して学び、幼児理解と評価の基本について学び、さらにカウンセリングマインドについて理解深める。</p> <p>また、幼稚園教諭の姿勢という観点から、実際のかつ実践的に幼児を理解する視点を提示しながら、基礎的な諸理論を学ぶと同時に幼児理解の具体的な方法として、幼児との触れ合いを通じての理解や、園での幼稚園教諭との幼児理解の共有、保育記録を用いた理解、家庭との連携を重視した理解など、幼稚園教諭として幼児を理解する上でとり得る具体的手法を学び幼児理解を深めていく。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	生徒指導論(進路指導を含む)	<p>近年学校現場において児童・生徒の様々な問題行動や適応の課題が生じており、教育の真の在り方が問われている。生徒指導はこれまでの教育のひずみを是正し、真の全人教育に立ち返らせるものとして認識されている。こういう立場からその意義と「いじめ・不登校・暴力など学校場面で生じる問題行動や生徒理解」などの基礎的知識及びその応用について理解し、「生徒や家庭への指導・カウンセリングや進路指導」などの具体的な対応方法を身につけることを目的とする。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等体育A(個人スポーツ)	<p>(概要) 幼稚園および小学校の体育、運動遊びの教育内容の背景をなす、陸上運動、器械運動、ダンス(表現運動)などの個人的運動種目について、その技術やルール、場の設定や用具の特性、指導のポイントや指導上の留意点等に関する理論と技術について、演習及び実技の形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(27 畠田 好章/10回) 器械運動では、「マット」「とび箱」「鉄棒」を使用し、「技が円滑にできる」ことをねらいとして、自己の努力や工夫によって器械器具の安全を確かめながら、洗練された運動が安定してできる段階まで練習すると共に、指導法及び補助法も身につける。</p> <p>(21 別府 健至/10回) 陸上運動では、走運動からハードル競技の技術とスタート技術を学習するとともに、投運動から砲丸投げを学び技術の習得を始め安全面に対しどのような注意を払ったら良いのかを学び・実践する。</p> <p>(19 笠井 里津子/10回) ダンスでは、リズムののって楽しく運動する遊びや模倣の運動、表現運動などについて実践的に学ぶ。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等体育B(対人・集団スポーツ)	<p>(概要) 幼稚園および小学校の体育、運動遊びの教育内容をなす、対人的・集団的なスポーツ種目、運動遊びについて、その技術やルール、場の設定や用具の特性、指導のポイントや指導上の留意点などに関する理論と技術について、演習及び実技の形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(32 木下 佳子/15回) 鬼ごっこからはじまり、ドッジボール、シュートボール、バスケットボールまでの攻守入り乱れるゴール型ゲームの技術とルール、指導法について実践的に学習する。</p> <p>(10 村本 和世/15回) ボールを手や簡単な用具で操作するボール遊びから、ネットを挟んで行う簡易ボールゲーム、ソフトバレーボールなどの攻守分離型・ネット型ゲームの技術とルール、指導法について実践的に学習する。</p>	(オムニバス)

コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等体育C(子どもの運動遊び)	<p>(概要) 幼稚園の運動遊び及び小学校低・中学年の体育の指導の内容をなす運動遊びを取り上げる。そして、それらの運動遊びに内包されている子どもの身体運動能力を発達させる要素、人間関係や約束・ルールをめぐる認識能力やコミュニケーション能力を発達させる要素などに注目しつつ、どの子どもも楽しく、安全に、仲良く「できる・わかる」ようになる運動遊び作りとその指導の方法について実践的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(11 久保 健/10回) 幼稚園や小学校低学年の教材とされている運動遊びの他、石けり、なわとび、まりつき、鬼ごっこ等の伝承遊びを素材とした運動遊びについて実践的に学習する。</p> <p>(26 田邊 勝/10回) 小学校低・中学年の「体づくり運動」のうち「力試し」や「力比べ」の内容を持つ運動遊び、すもう等の格闘遊びについて実践的に学習する。</p> <p>(30 亀山 有希/10回) リズム遊びや模倣・表現の運動遊び、また、幼児や小学校低・中学年の児童向けのフォークダンスや民謡について実践的に学習する。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等国語(書写を含む)	<p>本講義では、初等国語科における読むこと、書くこと、話すこと、聞くことの領域内容を、初等段階に焦点化させて体系的に学習・理解する。また学習指導要領の変遷や改訂の要点に関しても歴史の変遷を踏まえて学習する。さらに運筆や日本の書記体系、それらと関連させた伝統的な言語文化についても習得・理解を促す。</p> <p>以上の学習を基盤として、小学校入門期の子どもの言葉の発達の特徴を押さえた学習や、幼小の接続の問題についても学習する。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等算数	<p>本講義では、初等算数科の学習指導過程に立脚させ、教科の目標や児童の認知発達などの視点を踏まえつつ、算数科の学習内容の背景となる数学各分野(数と計算、量と測定、図形、数量関係)の内容についての基本的な理解と習熟を図るとともに、ものごとを「数・量」という観点から理解する能力を養い、算数科の教材研究と授業づくりを行う基礎となる基礎的な知識と能力を身につけるための講義を行う。</p> <p>また、このことが幼児の数量や形の体験について理解することもねらいとする。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等音楽	<p>本授業では、幼稚園や小学校の音楽科の教育において必要とされるピアノの技術の習得と、その表現力を養うことを目的とし、ピアノの集団レッスン及び個人レッスンを複数の教員により行う。童謡などを、歌を歌いながら弾けるようになることを目標とし、各個人の能力に応じた楽曲を課題として指導を行う。またその中で、音楽理論の知識や、和音による伴奏の実践、正しい発声による歌唱などを、同時に習得できるよう各受講生の状況に合わせた指導をし、豊かな表現力を養う。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等図画工作	<p>図画工作は、子どもと教師または保育者をつなぐ大切な造形活動である。そのためには教育の現場で造形制作を実践、応用ができるような技術の習得が必要である。また、技術は材料や技法、手順にかぎらず、表現に至るまでの考えをまとめる作業も必要となる。しかしながら一番大切なのは、将来教育の現場に立つ教師や保育者が制作の楽しさを実感し、その楽しさを子どもたちと共有できるような感性と想像力を身につけることにある。</p> <p>本授業では、そうした観点から、初等図画工作科の教育内容を成す様々な技術や知識を身につけることを目標とする。</p>	

コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等理科	<p>本講義では、初等理科を理科の学習指導過程に立脚させ、理科教育の目標や児童の認知発達などの観点から、理科の教育内容及び教材系統について、その意義や価値を理解し、実際に教材を構成し展開する能力を養うことを目標とする。</p> <p>具体的には、まず、理科の各学年、各領域の教材について、教科の目標や児童観、教材系統という観点から教材構成する視点を提示する。また、各学年、各領域の観察・実験の方法と器具を扱う技能について学習する。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等社会	<p>初等社会科に焦点をあて、教科の基本的な性格と課題、その目標・内容・方法といった教科構成の原理について理解し、その意義や価値を理解することを目標とする。また、児童の発達段階を踏まえて、学年に応じた社会科の内容構成の特色について解説する。</p> <p>具体的には、中学年における「自分たちが住んでいる身近な地域」「地域の生産や販売」「飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理」「災害及び事故の防止」など、高学年における「我が国の自然や国土」「農業や水産業や工業などの生産」「我が国の歴史上の具体的事象」「政治の働き」「世界の中の日本の役割」などについて検討する。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等家庭科	<p>初等家庭科の教育内容を構成している専門的内容について、幅広く学習する。</p> <p>家庭生活や家族領域では、家族・家庭生活における現状と課題、よりよい家族・家庭生活の在り方等、食物領域では、食生活の現状と課題、栄養や食品、調理の要点等、被服領域では、衣生活の現状と課題、被服の機能や管理等、住居領域では、住生活の現状と課題、住居の成り立ちや役割、適切な住まい方等、消費・環境領域では、消費生活におけるの現状と課題、環境に配慮した生活等について学習する。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等生活	<p>(概要)児童の身近な自然事象や社会の現象、自分自身についての事柄などについて、生活科の教科目標や児童の認知発達、教材系統の意義や価値をもとに、具体的な教材を構想し展開するために必要な知識・技能等の習得を図る。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 角屋 重樹／8回)生活科の目標とそこで取り扱う内容についての総論と、特に、身のまわりの生活の中の自然的事象と自己認識に関わった内容について検討する。</p> <p>(17 二井 正浩／7回)特に、学校の施設や学校生活を支えている事物や人間関係、地域の行事や社会生活に関わった内容について検討する。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等体育科教育法	<p>(概要)本講義では、幼稚園で運動遊びの指導ができ、小学校で体育の教材研究と授業づくりができるための理論的実践的基礎を築くことを目的として、体育科教育の本質と目的・内容・方法について優れた教育実践の事例も取り上げながら、理論的・実践的に考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 久保 健／8回)教科としての体育の歴史と本質ならびに目的・内容・方法、体育の教材研究論、体育における学習集団の組織と学習過程の組み立てについて、さらに、保健の教材研究と授業づくりについて講義する。</p> <p>(1 高橋 健夫／7回)学習指導要領の体育に関する記述の変遷と現在について、また、子どもと教師が向かい合った場面での相互交渉、体育の学習評価と教育課程づくり等々について講義する。</p>	(オムニバス)

コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等国語科教育法	<p>小学校国語科教育の目標や、領域構造、内容を習得し、それらに対応した指導法について実践的に学習する。特に新しい学習指導要領の特徴や傾向について理解するとともに、全教科で求められる言語力育成の方途を探究する。</p> <p>具体的には、これまで国語科で開発・検討されてきた教授＝学習方法を初等段階に焦点化させて紹介・検討し、それぞれの方法の長短を実践的に検討し理解する。また学習指導要領の改訂の要点についてもその歴史の変遷を踏まえて理解し、教育実践に活かせるようにする。例えば、今次の改訂の一つの要点でもある伝統的な言語文化についても、発達段階や地域性を考慮して実践化に纏わる問題を考察する。また、幼小の接続の問題についても具体的な学習材を例示して学習する。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等理科教育法	<p>本講義では、学校教育法ならびに学習指導要領の分析をもとに、小学校理科の目的・内容・方法について考察する。また、児童の認知発達の理解に基づいて、子どもの論理的思考や素朴理論、素朴概念などについて考える。そしてそれに基づいて、理科の学習指導について解説する。また、理科における評価の意義や目的・方法、観点別評価方法などについても解説する。</p> <p>さらに、以上の学習をもとに、各学年の理科の学習指導計画を立案させ、実際にシミュレーションさせる。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等算数科教育法	<p>学習指導要領に示された、数と計算、量と測定、図形、数量関係などの内容について理解するとともに、それらを教える立場に立つて把握し直し、算数科の学習指導を、教科の目標や児童観、教材観、評価観という視点をもとに、教育現場で行われている算数科教育の実践事例などにも学びつつ、算数科の年間指導計画や単位時間の学習指導案を構想し展開する仕方を習得することを目標とする。また、算数科の評価のあり方および具体的な評価の方法についても検討する。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等社会科教育法	<p>本講義では、まず、社会科では「何のために、何を、どのように教えるか」といった社会科の性格と目的・内容・方法、授業構成の原理について解説する。また、社会科の歴史、社会科教育をめぐる緒論争を振り返る。そして、社会科の教材研究の方法と授業づくりの原理、学習指導の方法、授業分析の手法、評価の観点と方法などについて、近年の研究動向や具体的な教育実践例なども紹介しながら考察する。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等音楽科教育法	<p>本講義では、小学校学習指導要領音楽科の目標および内容を理解し、指導の要点を捉えることができ、音楽科の授業の構成や指導案の作成ができることを到達目標とする。</p> <p>そのため、音楽科教育についての基礎的な知識と概念を学び、また、学習指導に必要な演奏技術や音楽表現力を演習形式で学ぶ。また、教材研究の方法および指導方法を学び、それを踏まえて学習指導案を作成して模擬授業を行い、子どもの豊かな表現力育成のための指導法を実践的に習得していく。</p>	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等図画工作科教育法	<p>小学生になると子どもの観察力はより研ぎ澄まされていく。自分と外界との関係が明確に意識され築かれていく時期である。道具も上手に使えるようになり図画工作における表現も多彩になる。図画工作に対し得手不得手や好き嫌いが出てくるこの時期に大切なことは、教育する側が表現されたものの評価を正しく行えることである。評価基準が狭く画一的になると、その基準に合わない個性を切り捨てることになる。多様なものの見方や表現を共有し、子どもたちの個性を大切にす教育者の育成が必要となる。</p> <p>本講義では、以上のような観点から、幼小の接続も視野に置きつつ、図画工作科の目的・内容及び指導法について実践的に検討していく。</p>	

コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等家庭科教育法	家庭科の本質論、内容論及び小学校家庭科で育成すべき能力を踏まえて、よりよい授業を設計・実践できる能力を培う。そのために、家庭科の本質論や目標及び内容構成について理解し、それらを踏まえて実際の授業を想定した年間・単元の指導計画と評価計画の作成方法等について学ぶ。 さらに、単位時間の学習指導案を作成して模擬授業を行ない、その分析・検討・考察を通して、よりよい家庭科の授業の在り方を考究する。	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	初等生活科教育法	概要) 児童の身近な自然現象や社会の現象、自分自身に関わる題材をもとに、生活科の学習指導を構想し展開するために必要な知識・技能等の習得を図る。また、生活科の具体的な教育実践例や学習指導案の立案等を通して、生活科の目標や児童の発達、教材、評価について考察する。 (オムニバス方式/全15回) (8 角屋 重樹/8回) 生活科の目的・内容・方法についての総論と、特に、自然と関わる生活についての教材研究と授業づくりについて講義する。 (17 二井 正浩/7回) 特に、地域や社会と関わる生活についての教材研究と授業づくりについて講義する。	(オムニバス)
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	国語科教育実践演習	小学校の国語科教科書における教材の中から、長期にわたって教材化されてきた作品を取り上げ、それらを扱った国語科の教材研究法や指導方法などについて調べる。また、調べたことを通して、教材研究や種々の指導方法などについて知見を深め、関連する理論や指導方法、指導技術についても検討・理解する。 さらに、上記内容を基盤として、具体的な指導の手立てや取り組みについて、実践例を用いて演習形式で議論・学習する。	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	算数科教育実践演習	本演習では、これまでに学んできた学部・学科共通科目及びコース専門科目と教職科目を架橋し、また「教育実習Ⅰ」で経験した内容と大学で学習した内容とを往還しながら、「教育実習Ⅱ」への準備学習も兼ねて、算数科の本質と目的・内容、教材研究と授業づくり、教具の工夫と学習指導方法、教育評価のあり方等について、演習形式で実践的に検討する。 なお、授業方法としては、映像資料や教育実践記録を用いた授業の分析検討、学習指導案づくりと模擬授業、論題を設定してのディベート等の諸方法を試みる。	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	理科教育実践演習	本演習では、これまでに学んできた学部・学科共通科目及びコース専門科目と教職科目を架橋し、また「教育実習Ⅰ」で経験した内容と大学で学習した内容とを往還しながら、「教育実習Ⅱ」への準備学習も兼ねて、理科の本質と目的・内容、教材研究と授業づくり、教具の工夫と学習指導方法、教育評価のあり方等について、演習形式で実践的に検討する。 なお、授業方法としては、映像資料や教育実践記録を用いた授業の分析検討、学習指導案づくりと模擬授業、論題を設定してのディベート等の諸方法を試みる。	
コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	社会科教育実践演習	本演習では、これまでに学んできた学部・学科共通科目及びコース専門科目と教職科目を架橋し、また「教育実習Ⅰ」で経験した内容と大学で学習した内容とを往還しながら、「教育実習Ⅱ」への準備学習も兼ねて、社会科の本質と目的・内容、教材研究と授業づくり、学習指導方法、教育評価のあり方等について、演習形式で実践的に検討する。 なお、授業方法としては、映像資料や教育実践記録を用いた授業の分析検討、学習指導案づくりと模擬授業、論題を設定してのディベート等の諸方法を試みる。	

コース専門科目	教育の教科の内容及び指導法	<p>体育科教育実践演習</p> <p>(概要) 本演習では、児童スポーツ教育コースで学んできたスポーツ教育に関する専門科目と教職科目を架橋し、また「教育実習Ⅰ」で経験し学習した内容と大学で学習した内容を往還しながら、「教育実習Ⅱ」への準備学習も兼ねて、体育科の本質と目的・内容、体育の教材研究と授業づくりについて検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 久保 健/7回) 「教育実習Ⅰ」で研究授業を行った際の学習指導案の反省的学習、また、それに関連する優れた現場教師の授業記録を読みながら、教材研究を深め、場の設定や教具の工夫と指導方法を改善するための学習を行う。</p> <p>(24 近藤 智靖/8回) 映像資料や教育実践記録を用いた体育授業の分析検討、学習指導案づくりと模擬授業を行う。また、体育における目標と評価のあり方について、ディベート等の方法も交えて多角的に検討する。</p>	(オムニバス)
自由科目	幼児教育の指導法	<p>保育内容総論</p> <p>幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と保育内容を関連付けて理解しながら、保育の全体的な構造の理解を深める。さらに、初等教育における「教科」と幼稚園教育における「領域」の違いとその関連について学び、保育内容と小学校での学びがどのように関連しているのか理論的考察を行いながら理解を深める。</p> <p>加えて、具体的に小学校との連携を行っている実践事例を通して、初等教育とのつながりを意識した保育内容の実際を学ぶ。また、幼稚園教育要領に示されている発達の課題の意味を学習し、多様な保育の展開について、具体的に学習し理解する。</p>	
自由科目	幼児教育の指導法	<p>健康指導法</p> <p>幼児期・児童期の各時期における子どものからだの特徴を理解し、子どもにとっての健康な生活や安全指導について学ぶ。集団保育である幼稚園、また家庭における健康管理や健康指導の重要性を理解し、子どもの基本的な生活習慣の意味やそれを具体的に確立する方法を学習する。</p> <p>成長途上である幼児から、児童期の健康な生活について広く学習すると共に、心身の健康の保持・増進に欠かすことのできない子どもの栄養・食育について理解を深め、健康指導を得意とする幼児教育者を育成する。</p>	
自由科目	幼児教育の指導法	<p>人間関係指導法</p> <p>子どもは誕生したと同時に家庭という最初の社会の中で、両親、兄弟姉妹等の人間関係を通じて成長する。その後、保育所、幼稚園、小学校等の集団保育や集団教育の場で、保育者、教員や子ども達同士の人間関係を通して社会性が育てられる。</p> <p>社会性が育つには、自分と他者の存在に気付き、人間関係の中で体験を通じて自立や自律して行く。その様な過程の中で、子ども達の教育に係わる幼稚園教諭、小学校教諭という教育専門職として、どの様な視点で教育活動に臨み、それを実践していくことが求められるかについて考察する。</p>	
自由科目	幼児教育の指導法	<p>環境指導法</p> <p>学校教育法により、幼稚園教育はその目的を達成するため「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」ことを理解し、教育活動全体を考える。幼児期の特質を踏まえ、児童期の健康な生活や社会生活の営みが積極的に行われるように、小学校の理科や社会科とも関連がある自然環境を教材にして、身近な草花や小動物に関心を持ち、積極的に関わることで、情操的なこころを育て、自然が人間形成に大きな役割があることを学ぶ。</p>	
自由科目	幼児教育の指導法	<p>言葉指導法</p> <p>幼児期からの言葉の発達について、その特徴や基礎的理論を学習・理解する。そして言葉の発達が幼児期からの精神活動や遊び等において、どういった役割を果たすかについても考えることができるようにする。</p> <p>さらにこれらの学習を通して、言葉の機能や子どもの思考、感情と言葉との関係についても考えることができるようにし、幼稚園、小学校における適切な指導に活かせることを目標とする。</p>	

自由科目	幼児教育の指導法	表現指導法	<p>幼児期における発達については、総合的に発達することを念頭に置いて考える必要がある。また、学童前期は幼児期と直結しているため、音楽リズム・絵画制作・造形・言語事項・劇的表現・鑑賞等においては、教育目標をより良く達成するために、教材・教具・資料等をどのような場面で的確に設定し進めていくかが重要となる。全身を使った活動、遊びから、児童の資質・能力を伸ばし、個人で行う作業・グループでの探求により体験を深めていくことで、表現という幅広くかつ深い学習へとつながっていく。</p> <p>本講義では、そのための前段階とし、情緒豊かで自主性・自立性・自己表現等の人間形成につながっていくことを目標とした学習展開を行う。</p>	
自由科目	幼児教育の指導法	造形指導法	<p>保育者、教育者に必要な造形表現の基礎知識・技能を習得し、様々な活動を通して、造形表現の楽しさと喜びを体験する。空き箱など、身近な素材を使った造形表現の実技演習を行い、自分たちで考え、物を作り出す力を養うと共に、造形表現の背後にある生活や社会との関わりについて理解する。また自己表現を行う造形活動から一歩進み、自分の周りに存在する物や現実を認識し観察する感性も養えるよう指導する。</p> <p>これらの実践活動を通し、造形に関する自らの評価基準を確立し、適切に指導できる技能を養う。同時に、教育指導計画を作成して実践を行える人材を育成する。</p>	
自由科目	教育実習	教育実習指導 I	<p>(概要) 「教育実習 I」に向けて、事前指導として、教育実習の意義と目的、実習に臨む心構えと態度、礼儀や服装、実習校の教職員や児童への接し方等について理解させるとともに、教育実習において有意義な体験と実践的学習ができるために必要な事前の準備を行う。</p> <p>特に、教科の単元計画と学習指導案の作成、場の設定と教具の工夫、「問い」の準備、評価の観点と規準の明確化などについて、模擬指導案の作成とその批判的検討を行う。事後指導としては、実習で体験・学習したことについてのふり返りと反省的学習を行う。</p> <p>授業担当は、全受講生を3クラスに分け、3つの内容について5回ずつローテーションするオムニバス方式/全15回で行う。</p> <p>(5 阿部 茂明/5回) 教育実習の意義や実習に臨む態度等について。</p> <p>(11 久保 健/5回) 各教科の教材研究や学習指導案の作成の仕方について。</p> <p>(33 関 芽/5回) 学級指導、特別活動、道徳などの指導計画の作成について。</p>	(オムニバス)
自由科目	教育実習	教育実習 I (小学校)	<p>2年次終了までに学習した内容及び「教育実習指導 I」を踏まえて2週間の教育実習を行う。この実習の前半には、学校という場で行われている教育の仕事の全体を身を持って体験すると同時に、特に指導教員の下で学級指導、教科指導、学校行事の指導等について見学実習を行う。</p> <p>後半には、じっくり時間をかけた教材研究と学習指導案作りを踏まえて、教壇実習を行う。そしてその自己反省と指導教員や大学の巡回指導教員の指導に基づき、自分の実習についての反省的学習を行う。</p>	(複数教員担当)

自由科目	教育実習	教育実習指導Ⅱ	<p>(概要) 「教育実習Ⅰ」の経験を振り返り、問題点や課題を明らかにするとともに、各教科ならびに学級指導、特別活動、道徳などの指導を適切に行えるようになるために、3年次終了までに学んだ成果を活かして、教材研究や学習指導案作成の力量、および目の前の児童と向き合っただけの教育的指導ができる力量をレベルアップさせる事を目指す。</p> <p>授業担当は、全受講生を3クラスに分け、3つの内容について5回ずつローテーションするオムニバス方式/全15回で行う。</p> <p>(6 森 徹/5回) 「教育実習Ⅰ」の全般的な反省的学習と、問題点の析出。大学の講義等で今後の何をどう学ぶかの明確化について。</p> <p>(7 森嶋 昭伸/5回) 子どもへの言葉かけと対応、学級活動や特別活動や道徳の指導、学校運営や保護者との対応など教職専門に関連する内容について。</p> <p>(11 久保 健/5回) 各教科の教材研究や授業づくり、学習指導や学習集団づくりの方法に関する内容について。</p>	(オムニバス)
自由科目	教育実習	教育実習Ⅱ(小学校)	<p>「教育実習Ⅰ」の経験を踏まえ、「教育実習指導Ⅱ」及び3年次終了までに学習した成果を活かして、2週間の教育実習を行う。この実習では、学級指導、各教科の指導、学校行事の指導等に積極的に取り組むとともに、学校の組織や運営、保護者や地域住民との関わり等についても体験的に学習して行くことを目指す。</p> <p>そしてその自己反省と指導教員や大学の巡回指導教員の指導に基づき、実習についての反省的学習を行う。</p>	(複数教員担当)
自由科目	教育実習	教職実践演習(小学校)	<p>(概要) 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」で体験・学習し、またそこから反省的に学習したことを踏まえると同時に、3年次前学期終了までに学んだ成果に基づいて、教職に就くための資質と能力の総仕上げの学習を目指す。その際特に、「教科専門科目」「教職専門科目」「教育実習」で学んだことに架橋し、それらを総合的に活用して教科や特別活動の指導ができるために必要な実践的指導力を養うことをねらいとする。</p> <p>授業担当は、全受講生を3クラスに分け、3つの内容について5回ずつローテーションするオムニバス方式/全15回で行う。</p> <p>(6 森 徹/5回) 「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の反省的学習とこれまでの大学における学習の「履修カルテ」を対照することにより、実習と大学の授業を架橋する学習。</p> <p>(7 森嶋 昭伸/5回) 学級活動、特別活動や道徳、生徒指導や保護者との対応などについて、問題を絞って分析検討やディベートなどで深める学習。</p> <p>(11 久保 健/5回) 教科教育の実習経験の反省に基づいて、映像資料や教育実践記録を用いた授業の分析検討、学習指導案づくりと模擬授業等を行う。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	基幹科目	子どもの運動遊び	<p>1年時の「幼児体育」を学習した上で、子どもの行動や運動能力の特徴を再確認し、また精神的な発達による遊びの展開や特徴を実践的に理解し、学習する。主に3歳児を対象にグループで考案した運動遊びを実践し、子どもたちにとって楽しく安全な遊びであったかどうか、クラスの中で振り返り評価しあう。</p> <p>また、将来保育現場において日常の保育や行事で活用できる教材研究にも取り組み、グループによって音楽を使ったフォークダンスや動きを作り、作品を発表する。本演習では、自ら遊びを工夫したり作り出すことを意識した授業展開を行い、その能力を養う。</p>	

コース専門科目	基幹科目	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉（児童福祉）の意義・理念・概念及び歴史的展開の過程を学び、子ども家庭福祉の法律・制度・福祉機関・施設を体系的に理解する。子ども家庭福祉のサービスの現状、専門職としての保育士の役割、子どもや家族に対する支援活動、子どもと家族の人権について理解を深め、現代社会における子どもを取り巻く現状と課題、今後の展望を理解する。	
コース専門科目	基幹科目	社会福祉学	現代社会における社会福祉の意義、理念について理解し、その動向や課題を探究し、社会福祉の概要と、法的理解、制度及び行政的理解、財政的理解を深め、社会福祉の実施体系について学習する。 また、社会福祉における子ども家庭福祉の位置、さらに利用者保護や権利擁護について理解し、地域における住民主体の社会福祉と、子ども家庭福祉の役割について学ぶ。	
コース専門科目	基幹科目	教育・保育課程論	教育・保育支援課程の理解をするとともに、指導・支援計画、保育・支援記録、省察、自己評価、保育所保育指針と保育計画との関係を学ぶことで、保育所における指導・支援について理解を深める。また、年齢ごとの指導・支援計画の実際、様々な保育形態での計画の実際を学ぶことで、保育者に必要な指導・支援の内容についての知識を修得する。 更に、保育所、保育所以外の児童福祉施設等における現場指導者を特別講師として招き、実際の現場での対応についても学習する。 （オムニバス方式／全15回） （3 坂井 元／5回）教育・保育の計画と評価の基本について担当する。 （2 5 齊藤 崇／10回）教育・保育課程の実際、指導計画の実際と計画の再編成、自己評価等を担当する。	（オムニバス）
コース専門科目	基幹科目	保育者論	幼稚園教諭や保育士としての保育者の役割や必要な職業倫理について学ぶとともに社会が求める保育者像を考察しながら理解を深める。さらに、社会制度上の位置づけ、守らなければならない服務義務などについて学び、理論的に理解を深めていく。 また、保育者の専門性について学ぶとともに、その専門性を研く上での園内・園外研修等必要性について理解する。特に、近年、保育者の協働性や同僚性が保育職場でも求められているため、具体的な協働・連携、あるいは、協働についても理解を深めるとともに、幼稚園教諭・保育士の専門職としての成長やライフサイクルについても理解を深め、長期にわたる視点から、幼稚園教諭・保育士という職業について考察する。	
コース専門科目	基幹科目	社会的養護	家庭養護の補完あるいは代替機能として、社会的養護が行われているが、それは、児童福祉のどこに位置づけられ、その意義と役割は何か。また、どのような歴史の変遷を辿ったかについて理解する。 社会的養護に関する児童福祉法、知的障害者福祉法等の法制度や児童相談所、市町村等関係機関の役割、及び社会的養護の実施体系について理解する。 また、社会的養護を実施する上で、児童の権利を擁護すると共に、児童の自立をどの様に支援して行くのか等について理解し、社会的養護の現状と、その課題についても理解する。	
コース専門科目	基幹科目	家庭支援論	家庭の存在意義と、本来家庭に求められる機能やその役割について、また、社会経済の歴史の変遷に伴う家庭機能の変化について理解し、現代の子育て家庭を取り巻く社会状況等についても学習する。 加えて、子育て家庭の支援に関する法制度、また、子育て支援の実施体制について理解すると共に、子育て家庭のニーズに対応して実施されている多様な支援の形態、支援の内容と子育て支援に係る市町村、子育て支援センター等の各種関係機関との連携について理解する。	

コース専門科目	基幹科目	発達障害と特別支援教育	<p>(概要) 特別支援教育は、一人一人学び方の違う子どもたちのニーズに合わせて適切な指導方法の選択や具体的な指導内容による実践が必要となる。それによって苦手意識の克服や取り組み姿勢の改善だけでなく、上手にできないことや必要以上に注意をされることで生じるパニックや自己否定感等の二次的な問題を少しでも予防、軽減することができる。</p> <p>本講義では、対応に工夫が必要となる発達障害に対する理解を深め保育・教育やスポーツの現場で具体的ななかかわりができるようなアイデアを考えることができ、さらにそのアイデアの実践ができる技術を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(44 齋藤 雅英/5回) 障がいによってその特徴や関わりの留意点は異なる。そのため、各障がいの特徴とその対応について学ぶ。</p> <p>(22 宇部(金子) 弘子/10回) 軽度発達障害の特徴について学び、学校現場で必要とされる実践的対応方法を身につける。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	展開科目	幼児体育	<p>幼児期の子どもの遊びや運動の重要性を理解し、幼児期にこそ体験しておきたい運動や遊びを実際に行う。伝承遊びやゲーム遊びをとおして、自分の体を楽しく動かす、仲間と体を動かす、集団になって体を動かす、親子で体を動かすなど、子どもの身体の特徴を十分理解し、安全に配慮し、楽しい運動遊びを展開できる力を身につける。</p> <p>また、年齢による発達を理解し、トレーニングや訓練ではなく、子どもが自主的に遊び、次第に運動能力が身につくよう保育者として促す力や工夫する力を養う。授業の展開においては、教人のグループになって4歳児の運動遊びを考え、実際に説明して遊ぶ体験をする。受講者は、保育者として自らの体の操作を自由にできるよう心掛ける。</p> <p>なお、毎回授業の記録をし、実習や将来保育者になった時に役立てるようにする。</p>	
コース専門科目	展開科目	ピアノ	<p>保育の現場で用いる「生活の歌」「行事の歌」「季節の歌」など、実用的な楽曲を中心にピアノの技術を高め、子ども達と一緒に歌を楽しめるようにすることを目標とし、複数教員による個人レッスンの形で行う。</p> <p>到達目標としては、暗譜をして、子ども達の顔や様子を見ながらピアノが弾けるようになることが必要であることを理解し、適正なテンポで、またその歌の雰囲気を感じ、楽しい曲は楽しく、静かな曲は静かに弾くことを心がける。表情豊かな音楽表現が出来るように指導する。同時に読譜力を向上させるための、読譜練習、リズム打法、基礎理論も学習する。</p>	
コース専門科目	展開科目	器楽演習	<p>ピアノの技術、音楽の表現力を基盤として、さらに技術を向上させると共に、演奏できる楽曲のレパートリーを増やし、様々な現場で活かせるようになることを目標とする。</p> <p>ピアノの個人レッスンを行うと共に、保育園・幼稚園等で取り入れられている様々な、簡易楽器、打楽器等を用いた器楽合奏を実践し、各楽器の正しい演奏法を学び、教育の現場での指導法を学習する。</p> <p>また、年齢ごとに分けた器楽合奏曲を演奏してみることにより、幼児の音楽的発達を知ることが目的とする。器楽合奏が正しいリズムで行えるよう、リズム打法の練習を実践し、楽譜の書き方も習得する。</p>	
コース専門科目	展開科目	リズム	<p>リズム教育の基礎知識や概念を学び、子どもと向き合ったときに、どのように活用していくかを考え実践していく。</p> <p>手遊びや子どもの歌から発展し、身体の動きと一体となった音楽表現を体験する。また、子どもへのリズム指導法を習得し工夫することを体得しながら、同時に、子どもの動きに合わせたピアノ即興演奏も学ぶ。</p>	

コース専門科目	展開科目	生活	<p>(概要) 本授業では、集団保育の場での「生活」について総合的に考える。幼稚園教育要領や保育所保育指針を理解し、保育者として生活を実践的に体験し、保育技術を高めることを目的とする。さらに、人間形成において重要な時期となる幼小期の発育発達と幼児教育について総合的に学習するとともに、近年の子どもたちの生活状況を十分に認識し、必要でかつ望ましい指導の在り方を追求する。</p> <p>また、幼小連携の立場から、身近な自然・社会、そして人とのかわりに対する認識を深め充実させるための対応等についても広く学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 岡本 美和子/3回) 子どもにとっての生活について総合的に捉える授業展開とする。</p> <p>(53 川原 民/12回) 子ども達の生活実態と適切な生活指導等について、具体的な実践例を提示しながら行っていく。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	展開科目	保育内容総論	<p>幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と保育内容を関連付けて理解しながら、保育の全体的な構造の理解を深める。特に、「環境を通して行う教育」「一人ひとりの発達に応じた指導」「遊びを通じた総合的指導」などと保育内容との関連について理論的考察を行いながら理解を深め、さらに具体的に保育実践事例を通して、保育内容の実際を学ぶ。</p> <p>また、世界各国や我が国における保育内容の歴史的変遷やその思想、現代の保育における環境構成、環境の再構成のあり方、幼稚園教育要領に示されている発達の課題の意味やそれらと保育内容の関連について理解を深め、多様な保育の展開と具体的な事例について、学習する。</p>	
コース専門科目	展開科目	子どもと健康	<p>幼児期における子どものからだの特徴を理解し、子どもにとっての健康な生活や安全指導について学ぶ。集団保育である幼稚園、保育所また家庭による健康管理や健康指導の重要性を理解し、子どもの基本的な生活習慣の意味や具体的な確立の方法を学習する。</p> <p>特に食事に関しては、偏食や好き嫌い、栄養、おやつ的重要性、食事の仕方、マナーなどについて食育関連も学習し、また疾病に関する知識を習得もめざす。</p>	
コース専門科目	展開科目	子どもと人間関係	<p>子どもは誕生したと同時に家庭という最初の社会の中で、両親、兄弟姉妹等の人間関係を通じて成長する。その後、保育所、幼稚園等の集団保育の場で、保育者や子ども達同士の人間関係を通して社会性が育てられる。</p> <p>社会性が育つには、自分と他者の存在に気付き、人間関係の中での体験を通じて自立や自律して行くことが基盤となるが、その様な過程の中で、子ども達の教育や支援に係わる保育者がどの様な視点で保育活動に臨み、保育実践していくことが求められるかについて考察し、理解する。</p>	
コース専門科目	展開科目	子どもと環境	<p>学校教育法における、幼稚園教育の目的を達成するため「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」ことを理解し、保育全体を考える。生活のその時の場面を大切に、子どもの健全な育ちについて学習する。</p> <p>また自然環境を教材にして、身近な草花や小動物に関心を持ち、積極的に関わることで、情操的なところを育て、自然が人間形成に大きな役割があることを学ぶ。さらには、社会生活の中で子どもが関心を示したり、知っておいた方が良いルールなどについても学ぶ。</p>	
コース専門科目	展開科目	子どもと言葉	<p>乳幼児の言葉の発達について、その特徴や基礎的理論を学習・理解する。そして言葉の発達が乳幼児の精神活動や遊び等において、どのような役割を果たすかについても理解する。</p> <p>さらにこれらの学習を通して、言葉の機能や子どもの思考や感情と言葉との関係性についても受講生自ら学ぶ姿勢を涵養し、具体的な指導計画や取り組みについても学習する。</p>	

コース専門科目	展開科目	子どもと表現	保育現場において、恥ずかしがらずに伸び伸びとまた楽しく子どもたちを誘導できるための、具体的な話しあいと実践を行う。身体を使った自然な表現ができることにより、抵抗なく保育に参加できるように学習を進めていく。時期・季節・行事、また日頃の保育や生活を題材として、身体全体を使い表現することにより喜びや楽しみを敏感に感じ取り、子ども達の心身ともに健康で豊かな人格形成に関われる保育者になることを目標とする。	
コース専門科目	展開科目	児童文化	我が国独自の概念である児童文化について、歴史的変遷やその時代に果たしてきた役割、さらには児童文化財の実際およびその使命等について学習する。また、具体的な児童文化財について授業の中で取り上げ、それらの取扱いの仕方や留意点、意義を学び、かつ、実際に活用意図等を学習し、日本古来の子ども文化における伝承遊びや児童についての慣習について理解を深めながら、現代の子ども達の児童文化という側面における課題について考察していく。 (オムニバス方式/全15回) (13 時本 久美子/8回) 具体的な児童文化財の実際について、授業の中で取り上げながらその取り扱いや留意点、意義について学習する。 (25 齊藤 崇/7回) 児童文化・児童文化財の実際について授業展開する。	(オムニバス)
コース専門科目	展開科目	相談援助	保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解し、その技術と方法を学習する。保育士として、人権の尊重、自立支援、守秘義務などの基本的な姿勢について理解し、保育士の職務として活用する個別援助技術や集団援助技術の事例分析を行い、保育におけるソーシャルワークの応用力をつける。ロールプレイやグループディスカッションをとおして、他者の存在(在りよう)を理解し相談援助につなげる。 また、心身に障がいのある人とのコミュニケーションを深めるため、特別講師を招き、手話・点字等にも触れる。	
コース専門科目	展開科目	障がい児保育	障がい児保育を支える理念と、その歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。発達障害、肢体不自由、知的障がい等様々な障がいについて理解し、障がいのある子どもや、その保護者に関する理解や支援の方法、環境構成等について学ぶと共に、関係機関との連携について理解する。障害のある子どもの視点に立って一人一人のニーズを把握し、必要な教育的支援を行うという教育と保育の連携について学習を深めていく。	
コース専門科目	展開科目	病児・病後児保育	乳幼児期は、感染症等罹病の機会が最も多い時期である。病気を持つ子どものみならずその養育者は心身ともに非常に不安な状況にさらされる。そのため、子どもの成長発達を促し、家族を支援していくことが保育者には求められていることを十分に理解しておく必要がある。 現在の病児・病後児保育の実態を知るとともに、保育者としての知識を深め、保育を行う上での注意点、そして多様化する保育について学習する。	
コース専門科目	展開科目	幼児理解とカウンセリング	幼稚園教育要領を踏まえて、幼稚園教諭として必要な幼児理解に関する諸理論や、その方法と具体的な方策について実践事例などを通して学び、幼児理解と評価の基本について、さらにカウンセリングマインドについて理解を深める。 また、幼稚園教諭が行う教育相談という観点から、教育相談の基礎的な諸理論を学び、同時に心理アセスメントや実施の仕方、実際の相談における傾聴を学び、幼稚園教諭が行う教育相談の基本について学習する。特に、相談の具体的な事例を通して、通園している保護者や地域の保護者に対する教育相談の方法について理解を深めていく。	

コース専門科目	教育の基礎	教育原理	<p>本講義では、これまで経験してきた学校生活及び日常生活を振り返り、「教育とは何か」という根本的な問いかけを常にしながら生活する態度を身に付ける。こうした活動を通じて、多くの人が「当たり前」と考えている「教育」にまつわるイメージを一旦崩し、新たに教育という営みについて考え直す機会となることを目指す。</p> <p>また、教育という活動の意義や目的、そして我が国の学校教育の歴史の変遷など一連の教育的な営みについて歴史的考察を加え、体系的に理解するとともに、学校における教育活動を支える指導原理と今日的な教育課題との関連について理解する。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	保育原理	<p>保育の意義や幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、保育所保育指針における保育の基本について学び、明確な認識を深める。さらには、世界における保育の思想、歴史の変遷、我が国における保育の思想、歴史の変遷を学ぶことで、保育思想のつながりや流れについて学習し、現代の幼稚園教育や保育の基本にどのように結び付いているかについて理解を深める。</p> <p>その際に、幼児観、発達観、保育観についても授業の中で触れ、それらが、保育を行う上で、どのように影響を与えるのかについても理解する。また、現代における幼稚園教育や保育を取り巻く現状やその課題について学ぶとともに、我が国における幼保一体化の変遷や制度などについても学び、考察を深め理解する。</p>	
コース専門科目	教育の基礎	教育の方法と技術(メディア教育を含む)	<p>(概要) 本講義では、教育の方法と技術について概説するとともに、特に言語的・視覚的リテラシーやメディア教育についても検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 奥泉(岩本) 香/8回) これまでに開発されてきた代表的な教育方法や教育技術を取り上げ、それらが学習者の思考や理解のあり方にどのような効果を意図し、どういった面を乗り越えるべく開発されたのかを考察する。また、発問や指示の技術にも触れ、学習者の意識や思考を焦点化させるための具体的提案も紹介・例示する。さらに、効果的なプレゼンテーションの方法と技術も学ぶ。</p> <p>(4 岩佐 克彦/7回) 今日の社会と学校教育では、さまざまなメディアの積極的な活用が求められるため、近年の学校教育において必須とされているインターネットを含むメディアの活用の際に必要なメディアリテラシーについても、学習者の環境の変化をも含めて講義する。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	教育の基礎	教育の制度と経営	<p>山積する我が国の公立学校の諸問題を、公立学校制度の理念と構造の把握を通じて検討する。また、公立学校に携わる様々な人々(国、教師、保護者、地域住民、子ども等)の相互作用によって引き起こされる、教育活動の複雑で複合的な営みを、学校経営の理念と現状を把握することで理解する。学校教育の場で児童を教育することは、極めて高度な技能と知識を必要とする専門職の領域だが、民主主義社会における学校教育は、教育を職業とする者の意思のみによって行われるべきではなく、一般市民の意志を反映させたものでなければならない。本講義では、学校集団として保護者や地域との望ましい関係を築くことの大切さを理解することを目的とする。</p>	

コース専門科目	教育の基礎	教師論	<p>教育の成否は教える教師次第であり、教師の人間性と専門性により教育効果は大きく左右される。そうした教師の営みを、我が国の教職観の変遷や教員免許制度の理念、および関係する教育法規等についての理解を深めながら、教師の果たすべき役割と、教師に求められる資質能力、専門性について学ぶ。</p> <p>また、近年の社会的変化に伴う児童の実態を踏まえ、これからの教師の望ましい在り方について考え、目指す教師像を明らかにする。これと並行して、現在の教師の職務と多忙感の原因を理解し、教師という職業を目指す上で多くの人が抱えている理想と現実のギャップを埋め合わせる作業も行う。</p>
コース専門科目	教育の基礎	発達心理学	<p>本講義では、発達を援助する立場になることを最終的な目標とし、心理学の知識を前提にしながら、人間発達の各時期に見られる個人的・社会的な問題を描き出すことを目的に、生涯発達の視点から授業を進めていく。特に思春期・青年期に至るまでの子どもたちの発達を中心に視聴覚教材（DVD、ビデオ）を活用しながら講義を進めていき、年齢による発達段階だけではなく、ひとりひとりの発達に応じて見通しをもって関わる力を身につける。</p>
コース専門科目	教育の基礎	人権教育	<p>本講義では、人間の尊厳の確立を目指し、人権擁護の知的理解や人権感覚、人権尊重の理念の認識を育むことを目標とする。</p> <p>人権教育が、同和教育を進める過程で教育本来の在り方が改めて考え直され、教育の根本理念を豊かにする経緯から生まれたことを踏まえ、人権が法的に守られている認識を基調とし、学校現場における様々な差別と不平等（同和問題、人種差別、様々な暴力、虐待、いじめ、不登校、ジェンダー、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、思想信条の自由の侵害など）の問題とといった課題を学生と共に考えていく。</p>
コース専門科目	教育の教科の内容	初等国語(書写を含む)	<p>本講義では、初等国語科における読むこと、書くこと、話すこと、聞くことの領域内容を、初等段階に焦点化させて体系的に学習・理解する。また学習指導要領の変遷や改訂の要点に関しても歴史の変遷を踏まえて学習する。さらに運筆や日本の書記体系、それらと関連させた伝統的な言語文化についても習得・理解を促す。</p> <p>以上の学習を基盤として、小学校入門期の子どもたちの言葉の発達の特徴を押さえた学習や、幼小の接続の問題についても学習する。</p>
コース専門科目	教育の教科の内容	初等算数	<p>本講義では、初等算数科の学習指導過程に立脚させ、教科の目標や児童の認知発達などの視点を踏まえつつ、算数科の学習内容の背景となる数学各分野（数と計算、量と測定、図形、数量関係）の内容についての基本的な理解と習熟を図るとともに、ものごとを「数・量」という観点から理解する能力を養い、算数科の教材研究と授業づくりを行う基礎となる基礎的な知識と能力を身につけるための講義を行う。</p> <p>また、このことが幼児の数量や形の体験について理解することもねらいとする。</p>
コース専門科目	教育の教科の内容	初等音楽	<p>本授業では、幼稚園や小学校の音楽科の教育において必要とされるピアノの技術の習得と、その表現力を養うことを目的とし、ピアノの集団レッスン及び個人レッスンを複数の教員により行う。童謡などを、歌を歌いながら弾けるようになることを目標とし、各個人の能力に応じた楽曲を課題として指導を行う。またその中で、音楽理論の知識や、和音による伴奏の実践、正しい発声による歌唱などを、同時に習得できるよう各受講生の状況に合わせた指導をし、豊かな表現力を養う。</p>

コース専門科目	教育の教科の内容	初等図画工作	図画工作は、子どもと教師または保育者をつなぐ大切な造形活動である。そのためには教育の現場で造形制作を実践、応用ができるような技術の習得が必要である。また、技術は材料や技法、手順にかかわらず、表現に至るまでの考えをまとめる作業も必要となる。しかしながら一番大切なのは、将来教育の現場に立つ教師や保育者が制作の楽しさを実感し、その楽しさを子どもたちと共有できるような感性と想像力を身につけることにある。 本授業では、そうした観点から、初等図画工作科の教育内容を成す様々な技術や知識を身につけることを目標とする。
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	保育の心理学Ⅰ	保育実践・幼児教育にかかわる心理学の基礎および知識を習得し、子どもへの理解を深めていく。また、乳幼児期・児童期の発達とその後の人間の発達に及ぼす影響について理解することにより、長期的な視点から子どもの発達を援助する方法を理解する。 そして、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	保育の心理学Ⅱ	子どもの心身の発達を理解するとともに、発達過程に即した保育実践について理解を深める。また、子ども相互のかかわりと関係作り、環境との相互作用など、保育にかかわる実践的知見を身につける。 そして、生活や遊びを通じての子どもの経験や学習過程について理解を深め、保育における発達援助について学ぶ。
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	子どもの保健ⅠA	本授業では、子どもの心身の健康の保持増進を図るための保健活動に関する意義と共に身体発育や生理機能、運動機能や精神機能の発達と保健について理解する。 また、子どもによく見られる疾病とその対応についても学び、保育における環境及び衛生管理と安全管理について理解する。さらに、子どもの生活環境と精神保健や子どもの心の健康とその課題についても広く学ぶことにより、保育現場において個々の子どもへの適切な対応ができる保育者としての強みを身につける。
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	子どもの保健ⅠB	本授業は、子どもの保健ⅠAをさらに発展させた内容とする。子どもの保育にあたり、子どもによく見られる疾病、事故や心身の障害について理解を深め、それぞれの対応や援助の方法、予防策、家庭と共に他の職種の人々との連携について考える。 また、保育現場における環境の整備や衛生管理、事故防止および安全対策並びに危機管理についても広く学習する。
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	子どもの保健Ⅱ	本授業では、子どもの保健ⅠA、ⅠBでの学習をもとに、保育所、保育所以外の児童福祉施設や幼稚園、学校など子どもとかわる現場で子どもの発育発達、健康状態を評価し体調の変化を把握することで、病気の対応、事故時の対処や予防が速やかにできるよう、その技術を修得する。 また、保育現場における子ども、保護者、職員を含めた健康と安全に関する実施体制について学習を深めていく。
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識について学ぶと共に、子どもの発育発達における食生活との関連、食育の基本と内容や食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。 また、現代の家庭における食生活の現状と課題について学ぶことにより、食を通じた保護者への支援や、食育のための環境作り、そして特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学びを発展させていく。

コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	保育内容総論演習	<p>保育所保育指針の保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連付けて保育内容について演習形式で学習する。特に、発達の過程の意味や、養護と教育が一体となって行われる保育の意味などを学習し、具体的な保育内容との結びつきや保育の展開について実践事例を通して理解を深める。</p> <p>また、幼稚園教育における保育内容と保育所における保育内容について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を踏まえ理解するとともに、多様な保育サービスにおける保育内容についても課題を考え、深く考察する。</p> <p>さらに、世界各国や我が国における保育内容の歴史の変遷やその思想を学び、現代における保育内容について理解を深める。</p>
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する基礎	保育内容演習(健康)	<p>本演習では、保育現場で指導展開される5領域の中の「健康」のねらい・内容に関する理解を深め、保育の実践で活用するための保育教材を作成することで乳幼児への健康指導のより具体的な方法と技能を身につけることを目標とする。</p> <p>授業においては、健康領域にかかわる保育教材の作成を授業の進行に合わせ順次取り入れ、子どもへの健康指導についての知識と技能を深めていく。</p>
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	保育内容演習(人間関係)	<p>幼稚園教諭、保育士という保育専門職として、どのような視点で保育活動に臨み、実践していくことが求められているかを、幼稚園、保育所等の保育現場における具体的事例を取り上げ、実践力をつける。</p> <p>具体的には、検討事例を学生個々で分析・評価した後、さらに小グループでケース別にディベートなどにより学習し、その結果を発表することにより、保育者として実際に活用できる力を培う。</p>
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	保育内容演習(環境)	<p>自然環境を教材にして、グループ活動によって身近な植物や草花や野菜を育てる。また、これらの生育を観察することにより、責任を持って関わる結果となって現れることを体感する。</p> <p>また小動物との交流を体験し、これらの生態を知るなど、自然を教材にした保育活動を取り入れることの重要性について演習形式の授業で実践的に学習する。また、固定遊具の安全管理や点検の方法について学ぶ。</p>
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	保育内容演習(言葉)	<p>乳幼児の言葉やその発達に着目し、生活や遊び等の場面における具体的な関わり方や指導について、実践的活動を通して学んだり考えたりする。また、素話や絵本を用いた実践を適切に計画・実行し、評価の要点についても考察できるようにする。</p> <p>具体的には、絵本を用いた遊びや、その展開に必要な学習材作り、適する発問作り等について、実演とそのリフレクションの組み合わせで、乳幼児をとり巻く言葉の問題について演習形式で学習し、受講生自ら検討・考察できるようにする。</p>
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	保育内容演習(表現)	<p>幼児の表現活動について、保育者の実務に即した内容で演習形式の授業により学ぶ。具体的には、幼稚園、保育所等の保育現場において、特に表現遊びを中心とする行事を立案・計画し、内容構成や保護者への文章の作成および幼児の行事に対する期待への誘導などを実践する。</p> <p>これにより、実際の保育現場を実感し、疑似体験することで、幼児が喜びや楽しみを持てるような誘導・援助について学習する。本演習では、小グループ単位で行い、1年間の予定の中から行事を1つ選び、計画の立案・準備・実行について授業内で発表する。</p>

コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	乳児保育	乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学習し、保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育発達について学び、健やかな成長を支える生活と遊びについて理解すると共に、乳児保育の計画を作成し、保育内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 言語によるやり取りが十分でない年齢の子どもを保育する場合、十分な知識や技術のみならず、子どもの気持ちを察する細やかな配慮が必要となってくる。演習形式で行うことで具体的な事例や課題を多数提示しながら、時にはグループでの討議を交えて学習を深めていく。	
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	障がい児保育演習	障がいのある子どもの保育・支援計画を作成し、個別支援及び他の子どもとの係わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。障がい児保育に関する実践例を多く提示しながら、障がい児及び保護者への支援や障がい児保育・支援に関わる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解を深めていく。	
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	社会的養護内容	「社会的養護」で既に学んだ児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解する。また、個々の児童に応じた個別支援計画を作成し、児童養護施設、知的障害児施設、肢体不自由児施設等の施設養護及び、里親、グループホーム等他の社会的養護の実際（日常生活支援、治療的支援、自立支援等）について具体的に学ぶ。 更に、社会的養護におけるソーシャルワークの方法と技術を理解し、家族支援、児童家庭福祉、地域福祉等について理解や認識を深める。	
コース専門科目	教育及び保育の内容と方法に関する実践	保育相談支援	保育士が行う保護者に対する相談支援の意義とその方法について学ぶ。相談支援の基本的内容を理解し、子どもの最善の利益を守り、かつ保護者への効果的な支援の方法について学習する。 また、児童福祉施設の種類や目的の違いを把握し、多様な保護者支援、社会福祉制度やサービスの内容を理解しながら実践力を高める。	
コース専門科目	保育実習	保育実習 I ①	保育所が求められている役割や機能を具体的に理解するため、保育所の理念、方針、施設構造、運営の基本的事項等について理解する。 保育現場に臨み、乳幼児の観察や子どもとの係わりを通して乳幼児へ理解を深めるとともに、保育所の目的、機能と、そこでの保育士の業務について学ぶ。 既習の教科の内容を踏まえ、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解すると共に、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 さらに、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	
コース専門科目	保育実習	保育実習 I ②	乳児院、児童養護施設、知的障害児（者）施設等における実習を行う。入所型児童福祉施設等の生活に加わり、子どもの基本的な生活の援助、保護者・家族への援助、学校・地域への援助などの実際を学び、子どもが最善の利益を得られるようにするには、どのような技術が必要か実習をとおして学習する。 入所型の施設に宿泊しながら実習を行うことで、時間外や夜間の業務を理解し、子どもたちの安全と安寧な生活を守ることを学ぶ。既習の教科の内容を踏まえ、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解すると共に、子どもの保育及び利用者への支援、さらに保護者・家族への支援について総合的に学ぶ。 また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	

コース専門科目	保育実習	保育実習指導Ⅰ	<p>本演習は、保育実習Ⅰ①、保育実習Ⅰ②における事前および事後の指導として位置付けており、保育実習の意義・目的を理解し、保育所実習・施設実習の内容を理解すると共に、自らの課題を明確にする。実習施設における子どもの人権への配慮と最善の利益を考慮し、支援場面におけるプライバシーの保護と守秘義務等の必要性について理解する。</p> <p>また、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、さらに実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(3 坂井 元/15回) 保育所における実習を中心に指導する。</p> <p>(18 本多 洋実/15回) 保育所以外の児童福祉施設における実習を中心に指導する。</p>	(オムニバス)
コース専門科目	保育実習	保育実習Ⅱ	<p>保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めると共に、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。</p> <p>既習の教科や保育実習Ⅰ①の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。</p> <p>また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、その理解を深めていくことで、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。</p>	
コース専門科目	保育実習	保育実習Ⅲ	<p>保育所以外の児童福祉施設等の目的や役割及び施設の機能について、実践を通して理解を深める。</p> <p>既習の教科や保育実習Ⅰ②の経験を踏まえ、家庭や地域での生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に関する理解を基に、家庭復帰を視野に入れた保護者支援、家庭支援のための知識、技術及び判断力を養う。</p> <p>また、保育士が行っている業務の内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することで保育士としての自己の課題を明確化する。</p>	
コース専門科目	保育実習	保育実習指導Ⅱ	<p>本演習は、保育実習Ⅱにおける事前および事後の指導として位置付けており、実習指導の意義と目的を理解し、保育所における保育について総合的に学ぶ。保育実習Ⅰ①や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。</p> <p>また、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解し、更に、実習の事前事後を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>	
コース専門科目	保育実習	保育実習指導Ⅲ	<p>本演習は、保育実習Ⅲにおける事前および事後の指導として位置付けており、実習の意義と目的を理解し、施設利用者支援について総合的に学ぶ。保育実習Ⅰ②や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育士としての実践力を培う。施設利用者・者への支援の観察、記録及び自己評価、支援内容の改善に関する実践や事例を学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解する。更に、実習の事前事後を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>	

<p>コース専門科目</p>	<p>総合演習</p>	<p>保育・教職実践演習（幼稚園）</p>	<p>（概要）保育所実習などの経験から幼児保育の課題を自ら発見し、解決のための具体的な実践方法について考えるとともに、課題解決型の学習を通して、起こり得る様々な課題について解決していくために実践的な指導力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（3 坂井 元／3回）保育者の役割、職務内容、子どもに対する役割について学習する。</p> <p>（13 時本 久美子／3回）保育者の職務内容、保育者としての資質・能力について学習する。</p> <p>（25 齊藤 崇／5回）幼児理解に基づいたクラス運営について、また模擬保育（ロールプレイング）、クラス・学級経営案の作成等を行なう。</p> <p>（15 奥泉(岩本) 香／4回）幼稚園、保育所現場の調査・分析、保育内容・領域内要等の指導力について学習する。</p>	<p>（オムニバス）</p>
<p>自由科目</p>	<p>教育実習</p>	<p>教育実習指導 I</p>	<p>本演習は、「教育実習指導 I（幼稚園）」における事前および事後の指導として位置付けており、「幼稚園教諭1種免許状」の取得について、その責任に対する意識を涵養し、教育実習の意義を十分に理解する。</p> <p>教育実習のために自ら気付き、考え、準備を実行に移すことで、これまでに得た専門的知識、日頃の授業で教授されたことを総合的に実践し、より効果的に実習で生かせるようにする。</p> <p>また、教育実習終了後には、自分の得た貴重な体験を互いに話し合い、今後の保育者としての技術の向上に役立てる気づきになることを目的に、反省会を行う。</p>	
<p>自由科目</p>	<p>教育実習</p>	<p>教育実習 I（幼稚園）</p>	<p>幼稚園において、観察実習、参加実習を行い、幼稚園教育の実際について理解するとともに、幼児の実際の発達課題やその保育内容を学び、幼児の様子及び、幼稚園教諭の職務、幼稚園の役割、幼稚園教育における保育内容について理解を深める。</p> <p>特に、観察実習では、幼稚園教育における保育内容とデイリープログラムなどの保育の流れの理解、幼稚園教諭の幼児に対する援助の実際、さらには、幼児の年齢に応じた姿や一人ひとりの幼児の様子などを観察することから学び、理解を深める。</p> <p>また、参加実習では、実際に幼児とのかかわる経験を通して、幼児の様子や幼児への援助について考察を行い、幼稚園教諭の仕事の理解を深める。実際の実習を通して、教育実習 II（幼稚園）につながるような基礎的な経験とその理解を行えるように配慮する。</p>	
<p>自由科目</p>	<p>教育実習</p>	<p>教育実習指導 II</p>	<p>3年次までの教育実習及び教育実習指導 I を発展的に捉え、幼児教育の実践を通して幼稚園教諭の役割について考えを深め、その職務や責任への理解や、幼稚園教諭としての“的確な判断力”を養う。</p> <p>特に子どもの命を預かる職務の重要性を実感し、そのための具体的な方策を考え行動できるようにする。また、保育計画を立案し実践する機会を得て、保育計画の意味や重要性を総合的に考察できるようにする。</p> <p>実習においては、観察実習、部分実習に加え一日責任実習を経験して、一日の保育の流れやそれを基盤とした計画の作成、中期・長期的観点からの省察ができるようにする。</p>	

自由科目	教育実習	教育実習Ⅱ(幼稚園)	<p>3年次の「教育実習Ⅰ(幼稚園)」を発展的に捉え、幼児教育の実践をとおして幼稚園の役割について考え、保育者の仕事や役割を理解し、保育者としての“的確な判断力”を養う。</p> <p>特に子どもの命を預かる責任の大きい仕事であることを実感できることが大切である。また、保育計画を立案し実践する機会を得て、保育計画の意味や重要性を学ぶ。実習においては、見学実習、部分実習に加えて園との打ち合わせにより一日責任実習を経験する。事前一日の保育計画を作り、保育者の一日を実践的に体験する。</p>	
自由科目	自由科目	在宅保育論	<p>(概要) 保育施設のみならず、家庭においてより良い保育をするための、保育に関する知識や技術の質をより高めることに目標を置いている。</p> <p>また将来的には、児童福祉行政、幼稚園の預かり保育、その他様々な地域子育て支援に関わる際に役立てられるよう広い視野に立ち学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 坂井 元/4回) 在宅での子育て支援等を担当する。</p> <p>(13 時本 久美子/2回) 在宅における子どもの遊びを担当する。</p> <p>(18 本多 洋実/4回) ベビーシッターの仕事の実際と関連する地域子育て支援内容を担当する。</p> <p>(16 岡本 美和子/5回) 在宅での健康管理・食事・事故予防等を担当する。</p>	(オムニバス)

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。